

横須賀市民アンケート報告書

平成 30 年（2018 年）9 月

横 須 賀 市

目 次

I 調査目的および実施方法等	1
II 集計結果	3
i 横須賀市の最近の動きについて	3
1 横須賀市が進めている取り組みに対する実感について	3
2 横須賀市が進めている取り組みの認知度について	10
ii 横須賀の魅力について	20
iii 横須賀への愛着や住み良さについて	22
iii - 1 横須賀への愛着について	22
iii - 2 横須賀市の住み良さについて	23
iii - 3 横須賀市への定住意識について	25
iv 基本計画に掲げた重点プログラムに対する実感について	31
重点プログラム1「新しい芽を育む」	
～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～	
1 平成30年度調査と平成26年度調査との比較	33
2 回答理由分類	35
重点プログラム2「命を守る」	
～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～	
1 平成30年度調査と平成26年度調査との比較	39
2 回答理由分類	41
重点プログラム3「環境を守る」	
～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～	
1 平成30年度調査と平成26年度調査との比較	45
2 回答理由分類	47
重点プログラム4「にぎわいを生む」	
～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～	
1 平成30年度調査と平成26年度調査との比較	51
2 回答理由分類	53

重点プログラム5「地域力を育む」	
～地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・地域を支えるコミュニティ機能の強化～	
1 平成30年度調査と平成26年度調査との比較	57
2 回答理由分類	59
横須賀市の都市力（都市の魅力）	
1 平成30年度調査と平成26年度調査との比較	63
2 回答理由分類	64
優先して取り組むべき政策について	
1 優先して取り組むべき政策の傾向	66
2 優先して取り組むべき政策と取り組みの方向性に対する現在の実感	68
v 市の具体的な取り組みに対する実感・意識について	69
v - 1 市役所サービスへの満足度について	69
v - 2 地域活動への参加状況について	70
v - 3 地産地消について	71
1 農水産物の産地に対する意識について	71
2 横須賀市産の農水産物の選択について	73
v - 4 健康づくりについて	74
1 健康意識について	74
2 健康状態の把握手段について	75
3 ラジオ体操の実施の認知度について	76
4 ラジオ体操への参加について	77
5 ラジオ体操に参加していない理由について	78
6 習慣的な運動の実施状況について	79
基本的な属性（F1～F6）	80
調査票	82

I. 調査目的および実施方法等

1 調査目的および調査項目

市民の生活意識や市政に対する実感を把握し、今後の政策・施策の立案等に活用するため、以下の項目についてアンケート調査を実施した。

①市に対する関心や定住意識等の把握

現在市が進めている取り組みに対する実感・認知度、また、愛着や定住意識など、市に対する関心や意識についての調査。

②市の政策・施策に対する実感の把握

横須賀市基本計画（2011～2021）において重点的・優先的に実行する取り組みとして掲げた「重点プログラム」についての調査。

③市の具体的な取り組みに対する実感・意識の把握

その他市が進めている具体的な取り組みに対する実感・意識についての調査。

【調査項目】

設問番号	項目
①市に対する関心や定住意識等について	
問 1・2	「横須賀市の最近の動き」について
問 3	「横須賀の魅力」について
問 4	「横須賀への愛着」について
問 5	「横須賀市の住み良さ」について
問 6～8	「横須賀市への定住意識」について
②市の政策・施策に対する実感について	
問 9～20	「基本計画に掲げた重点プログラムに対する実感」について
③市の具体的な取り組みに対する実感・意識について	
問 21	「市役所サービスへの満足度」について
問 22	「地域活動への参加状況」について
問 23・24	「地産地消」について
問 25～30	「健康づくり」について
基本的な属性	
F 1～6	F 1 性別 / F 2 年齢 / F 3 居住地域 / F 4 職業 / F 5 世帯の状況 / F 6 居住年数

2 調査概要

調査方法	郵送法（郵送配布、郵送回収） アンケートの実施に際しては、例年と同様、重点プログラムの内容や目標、達成に向けた取り組みへの理解を促すための参考資料を同封。
調査対象	15歳以上の市民2,000人 (平成30年(2018年)4月1日現在；住民基本台帳から無作為抽出)
回収数	816件（前年度 571件）
回収率	40.8%（前年度比 プラス12.2ポイント）
調査期間	平成30年(2018年)5月7日～5月28日 ＊発送日－投函締切日

3 その他

調査の企画・分析は横須賀市都市政策研究所で実施。

なお、回答率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%とならない場合がある。

Ⅱ．集計結果

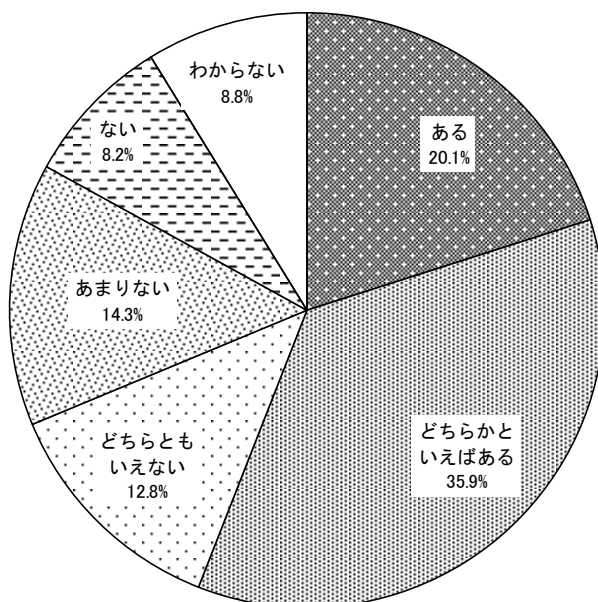
ⅰ 横須賀市の最近の動きについて

問 1 今の横須賀で、次に掲げる取り組みが進んでいる実感はありますか。

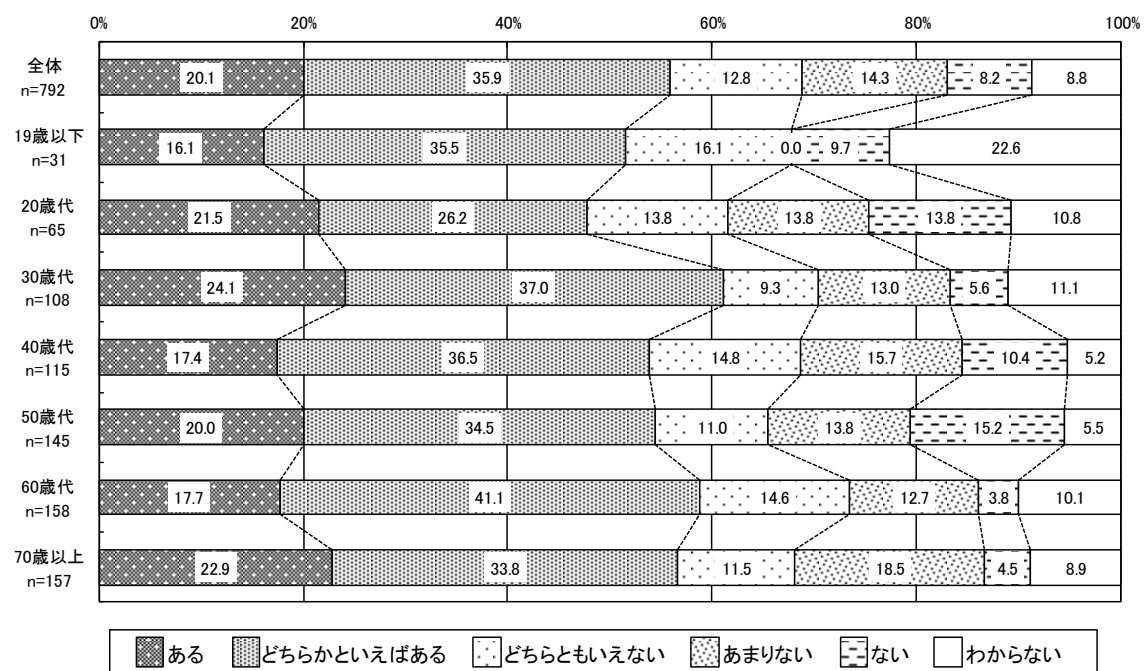
1 海を活用した取り組み

- ・ 6 割近くの回答者が、取り組みが進んでいる実感があると回答（「ある」（20.1%）、「どちらかといえばある」（35.9%）の合算）。
- ・ 年代別では、30 歳代の実感が最も高い。

図表 ⅰ-1 「海を活用した取り組みの実感」（n=792）



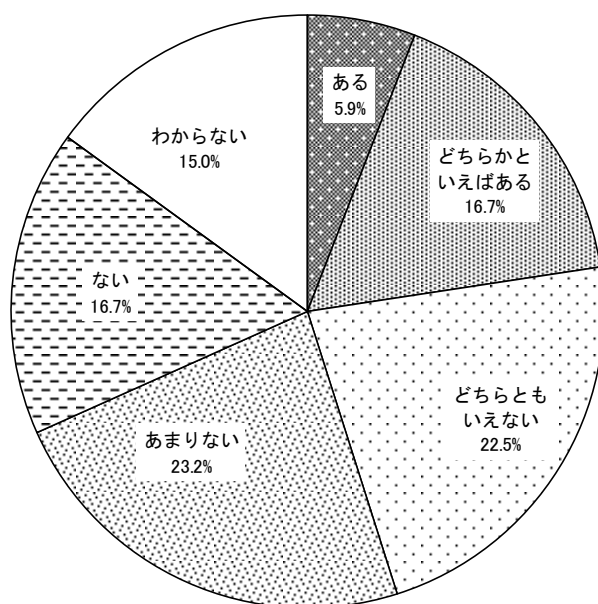
図表 i-2 「海を活用した取り組みの実感」(n=792)



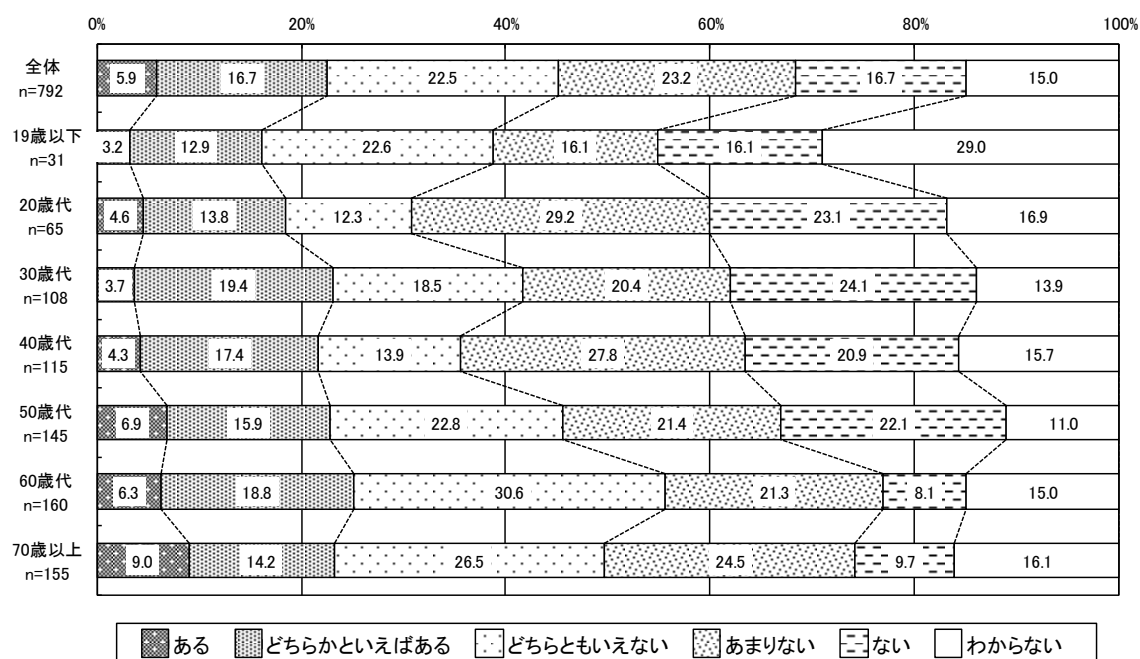
2 音楽を活用した取り組み

- ・約2割の回答者が、取り組みが進んでいる実感があると回答（「ある」(5.9%)、「どちらかといえばある」(16.7%)の合算）。
- ・年代別では、20歳代以下の実感がやや低いものの、年代ごとの差はあまりみられない。

図表 i-3 「音楽を活用した取り組みの実感」(n=792)



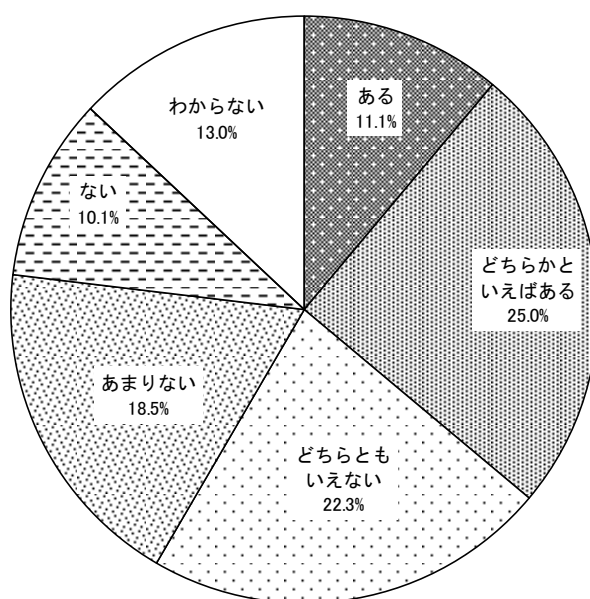
図表 i-4 「音楽を活用した取り組みの実感」(年代別)(n=792)



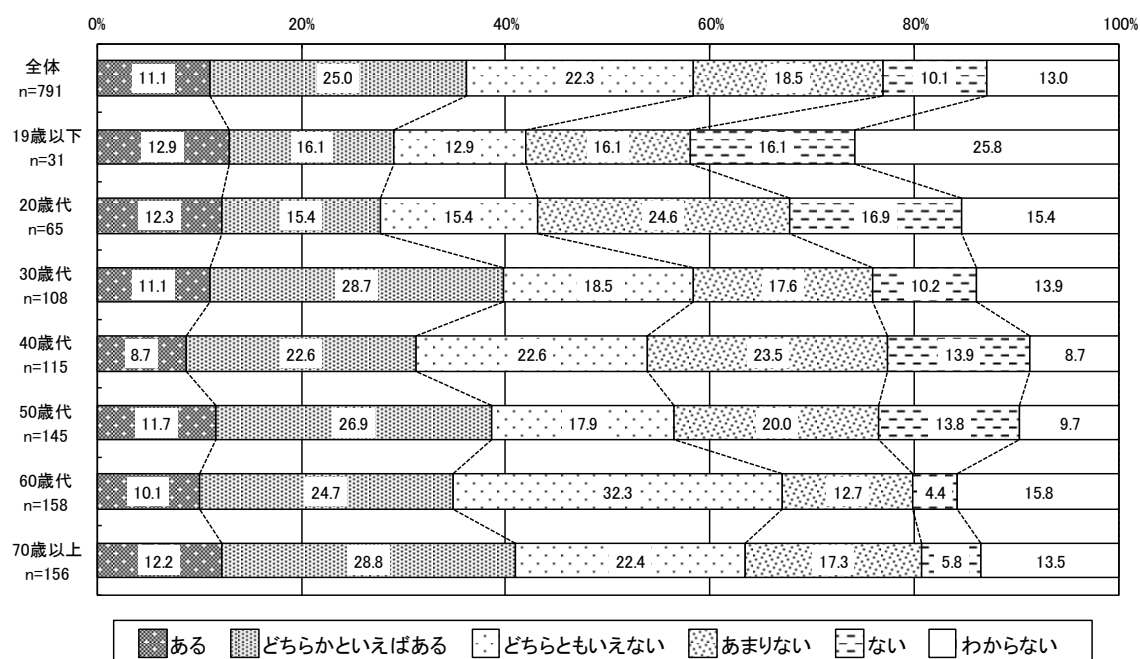
3 スポーツを活用した取り組み

- ・ 4 割近くの回答者が、取り組みが進んでいる実感があると回答（「ある」（11.1%）、「どちらかといえばある」（25.0%）の合算）。
- ・ 年代別では、30 歳代、50 歳代、70 歳以上の実感がやや高い。

図表 i-5 「スポーツを活用した取り組みの実感」（n=791）



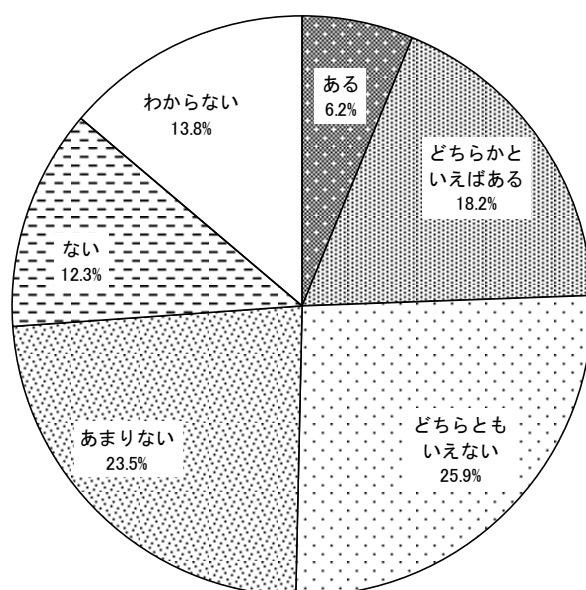
図表 i-6 「スポーツを活用した取り組みの実感」（年代別）（n=791）



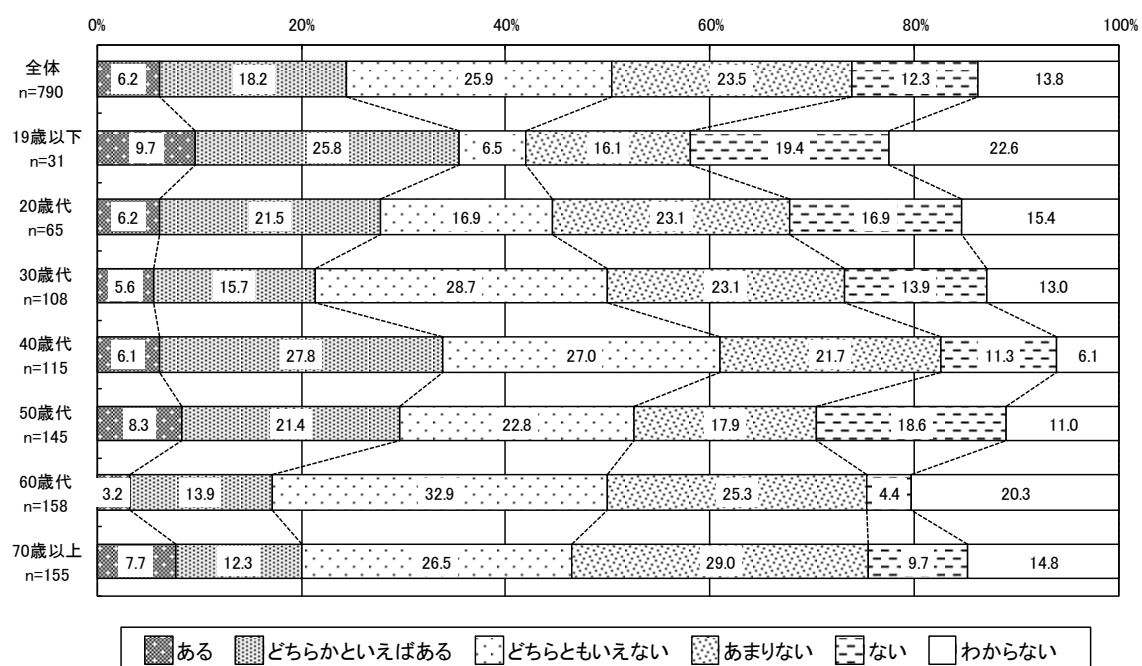
4 アート・芸術を活用した取り組み

- ・約4分の1の回答者が、取り組みが進んでいる実感があると回答（「ある」（6.2%）、
「どちらかといえばある」（18.2%）の合算）。
- ・年代別では、60歳代、70歳以上の実感が低いのに対し、若い世代がやや高い。

図表 i-7 「アート・芸術を活用した取り組みの実感」(n=790)



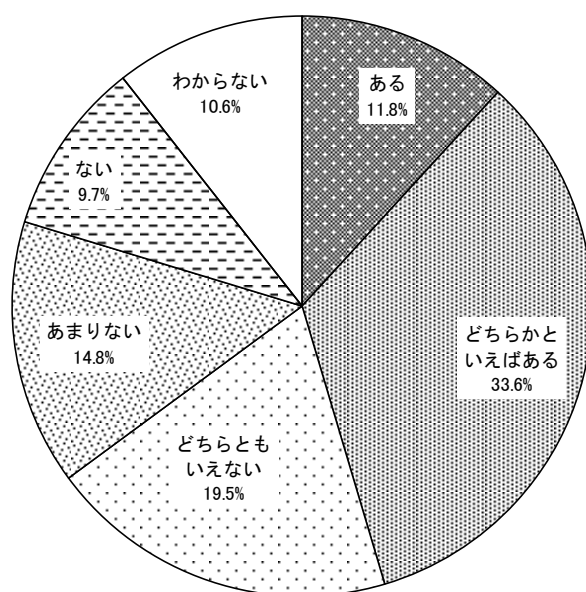
図表 i-8 「アート・芸術を活用した取り組みの実感」(年代別)(n=790)



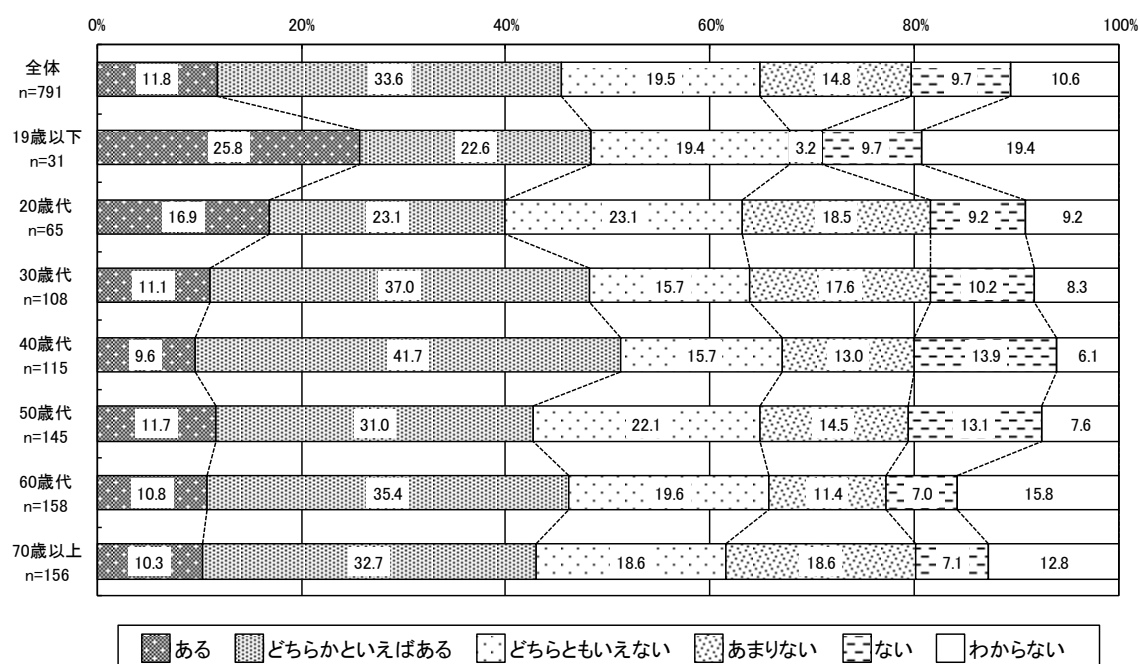
5 歴史を活用した取り組み

- ・半数近くの回答者が、取り組みが進んでいる実感があると回答（「ある」（11.8%）、「どちらかといえばある」（33.6%）の合算）。
- ・年代別では、40歳代の実感がやや高いものの、年代ごとの差はあまりみられない。

図表 i-9 「歴史を活用した取り組みの実感」（n=791）



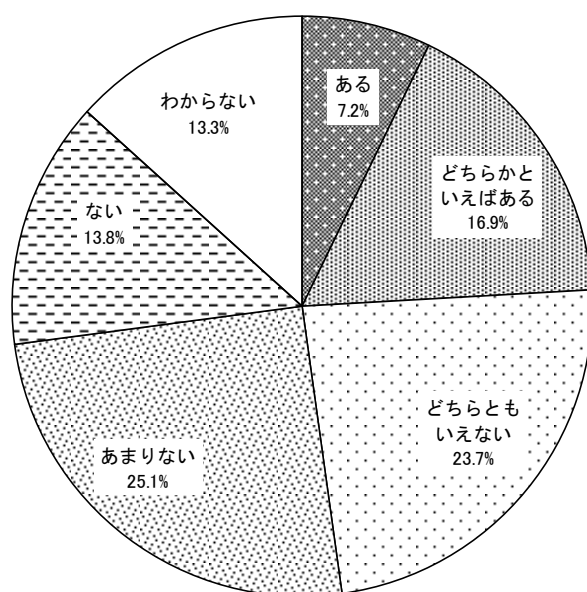
図表 i-10 「歴史を活用した取り組みの実感」（年代別）（n=791）



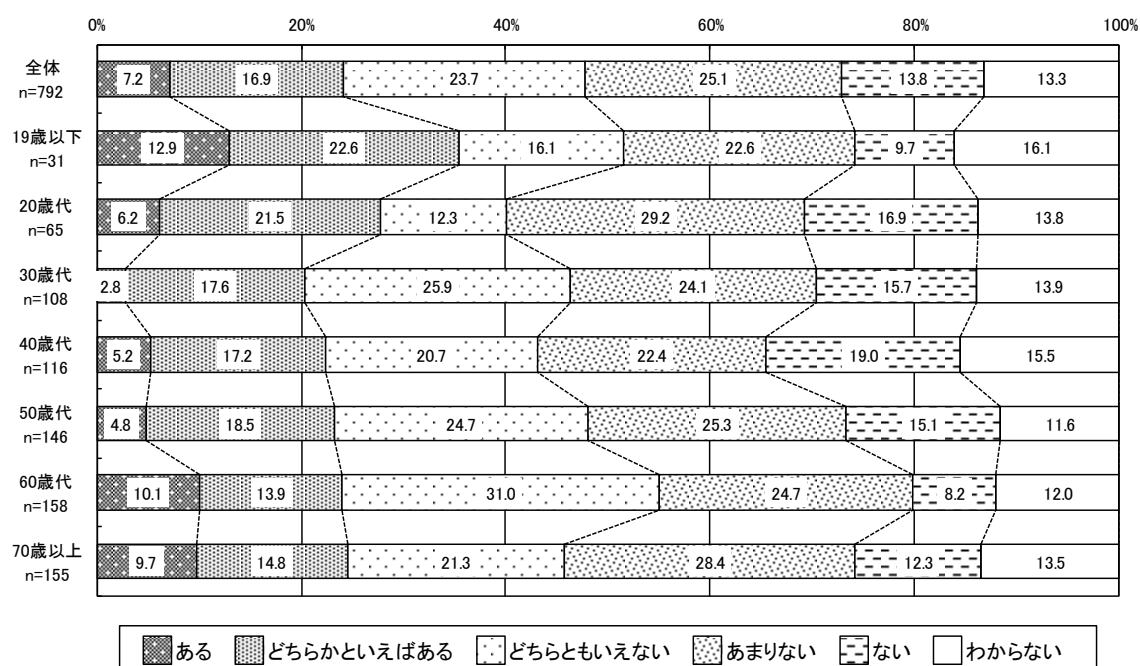
6 地域のつながりを深めるための取り組み

- ・約4分の1の回答者が、取り組みが進んでいる実感があると回答（「ある」（7.2%）、
「どちらかといえばある」（16.9%）の合算）。
- ・年代別では、20歳代以下の実感がやや高い。

図表 i-11 「地域のつながりを深めるための取り組みの実感」（n=792）



図表 i-12 「地域のつながりを深めるための取り組みの実感」（年代別）（n=792）

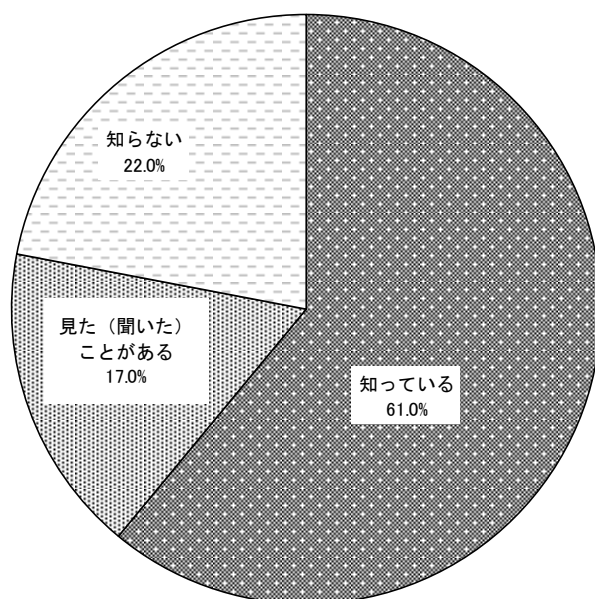


問2 あなたは、次に掲げる具体的な取り組みについて知っていますか。

1 津久井浜海岸での ANA ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会の開催

- ・ 8 割近くの回答者が認知している状況（「知っている」（61.0%）、「見た（聞いた）ことがある」（17.0%）の合算）で、前回調査と比べて約 14 ポイント上昇した。
- ・ 年代別では、20 歳代以下の認知度が 6 割以下で、やや低い。

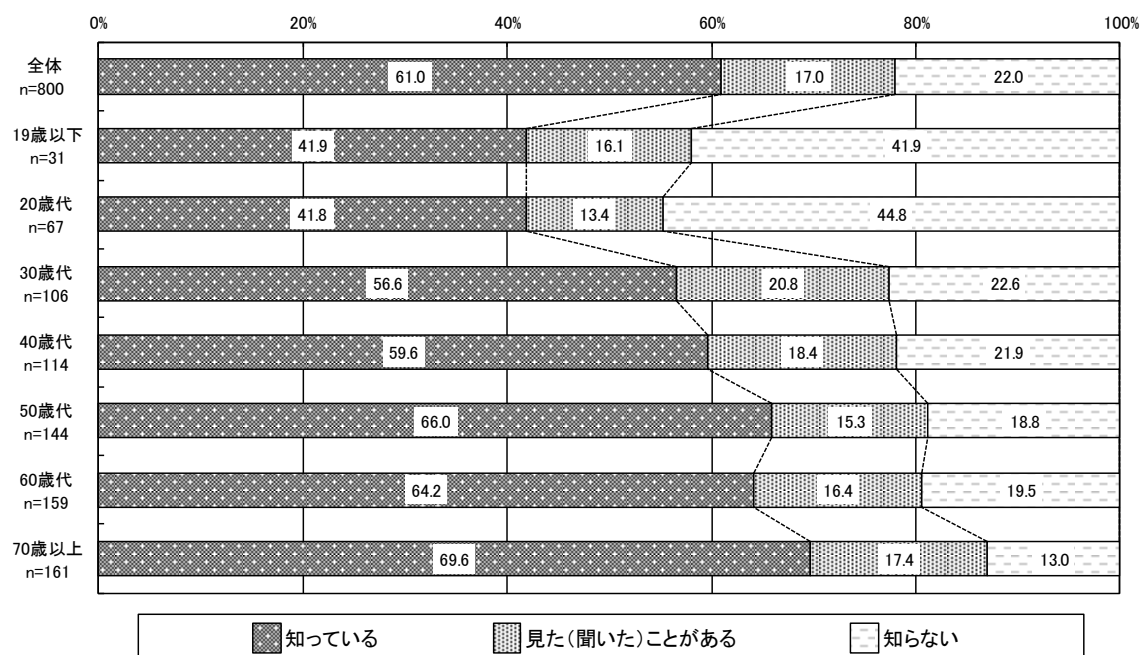
図表 i-13 「ANA ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会の認知度」（n=800）



図表 i-14 「ANA ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会の認知度（H30-29 年度）」

調査年度	件数(人)	(%)			
		①知っている	②見た(聞いた)ことがある	③知らない	①+②
30年度	800	61.0	17.0	22.0	78.0
29年度	555	44.7	19.1	36.2	63.8

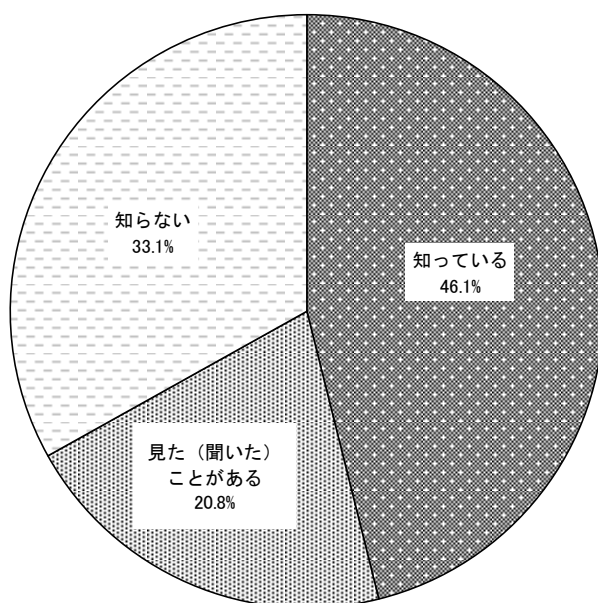
図表 i-15 「ANA ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会の認知度」(年代別)(n=800)



2 横浜 DeNA ベイスターズのファーム施設（総合練習場、選手寮）の追浜公園への全面移転

- ・ 7 割近くの回答者が認知している状況（「知っている」（46.1%）、「見た（聞いた）ことがある」（20.8%）の合算）で、前回調査と比べて約 14 ポイント%上昇した。
- ・ 年代別では、20 歳代以下、30 歳代の認知度が 6 割以下で、やや低い。

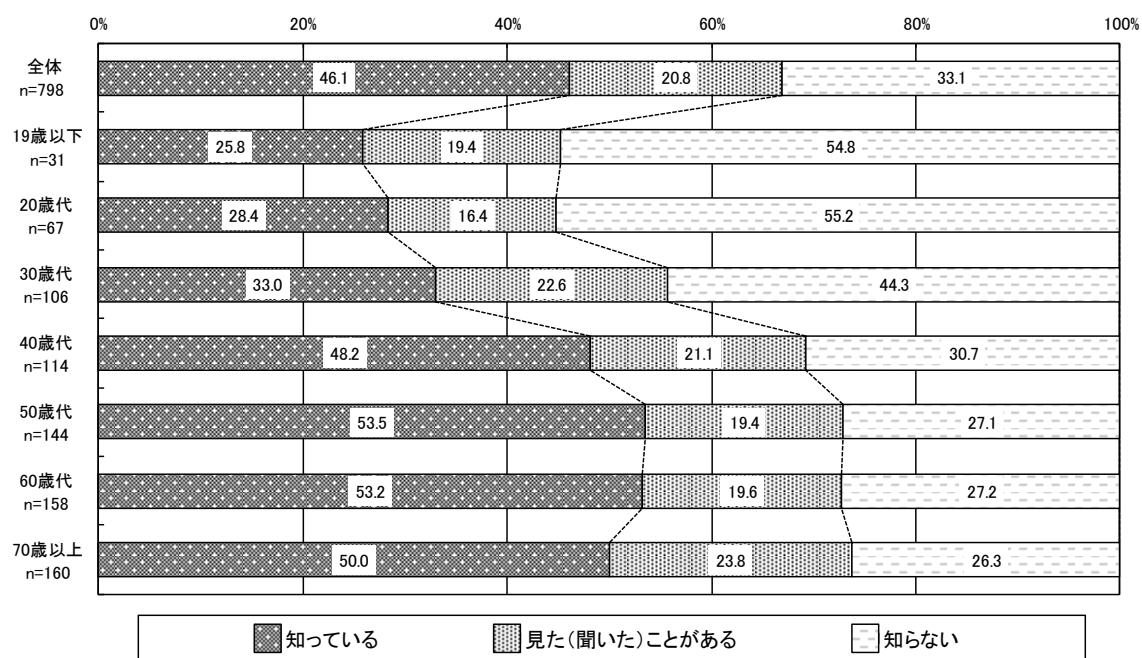
図表 i-16 「横浜 DeNA ベイスターズのファーム施設（総合練習場、選手寮）の追浜公園への全面移転の認知度」（n=798）



図表 i-17 「横浜 DeNA ベイスターズのファーム施設（総合練習場、選手寮）の追浜公園への全面移転の認知度（H30-29 年度）」

調査年度	件数(人)	(%)			
		①知っている	②見た(聞いた)ことがある	③知らない	①+②
30年度	798	46.1	20.8	33.1	66.9
29年度	556	33.8	19.2	46.9	53.0

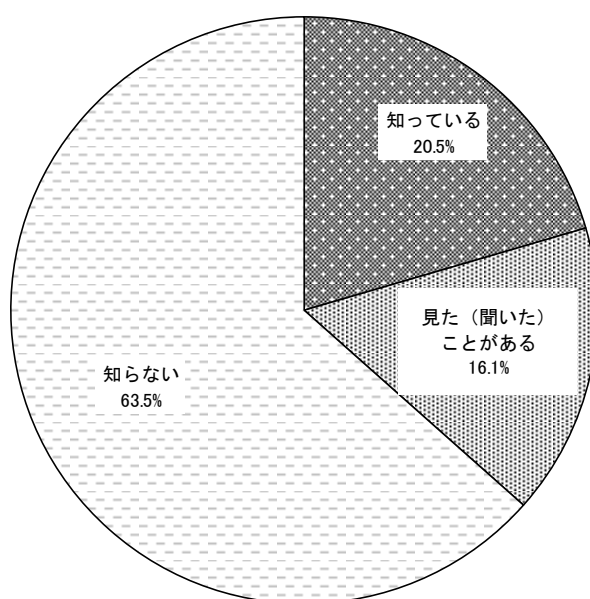
図表 i -18 「横浜 DeNA ベイスターズのファーム施設（総合練習場、選手寮）の追浜公園への全面移転の認知度」（年代別）（n=798）



3 本市を含む旧軍港4市（横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市）の日本遺産認定

- ・ 4割近くの回答者が認知している状況（「知っている」（20.5%）、「見た（聞いた）ことがある」（16.1%）の合算）で、前回調査と比べて約11ポイント下落した。
- ・ 年代別では、70歳代の約5割、50歳代・60歳代の約4割と比べて、20歳代以下が2割以下で、低い状況にある。

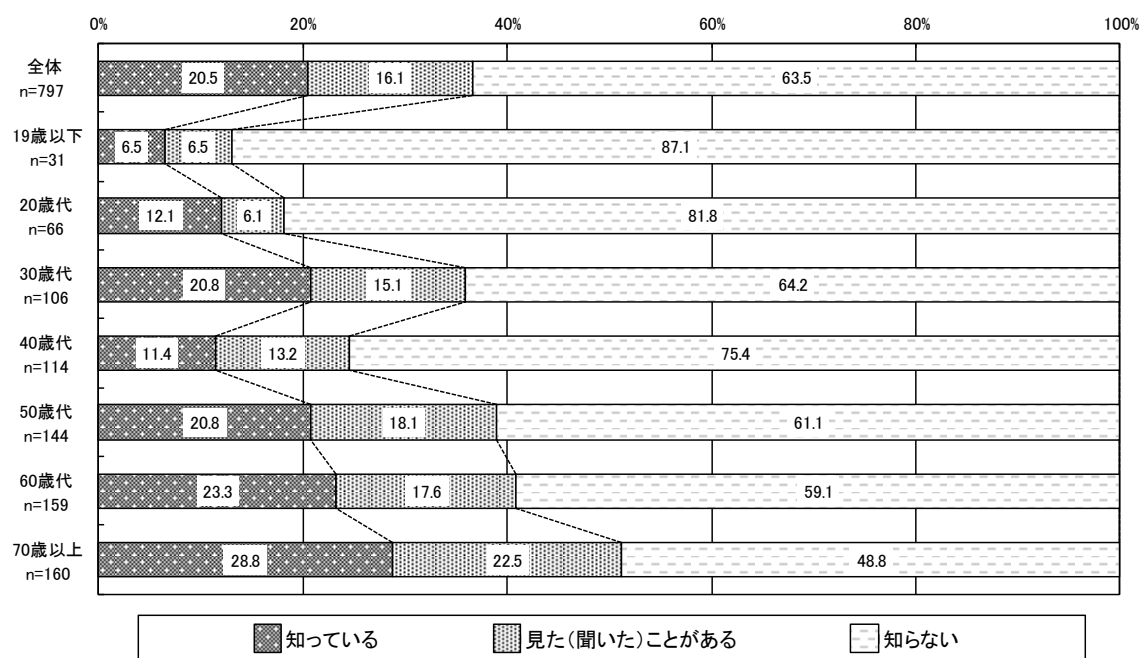
図表 i-19 「本市を含む旧軍港4市（横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市）の日本遺産認定の認知度」（n=797）



図表 i-20 「本市を含む旧軍港4市（横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市）の日本遺産認定の認知度（H30-29年度）

調査年度	件数(人)	(%)			
		①知っている	②見た(聞いた)ことがある	③知らない	①+②
30年度	797	20.5	16.1	63.5	36.6
29年度	553	25.9	22.4	51.7	48.3

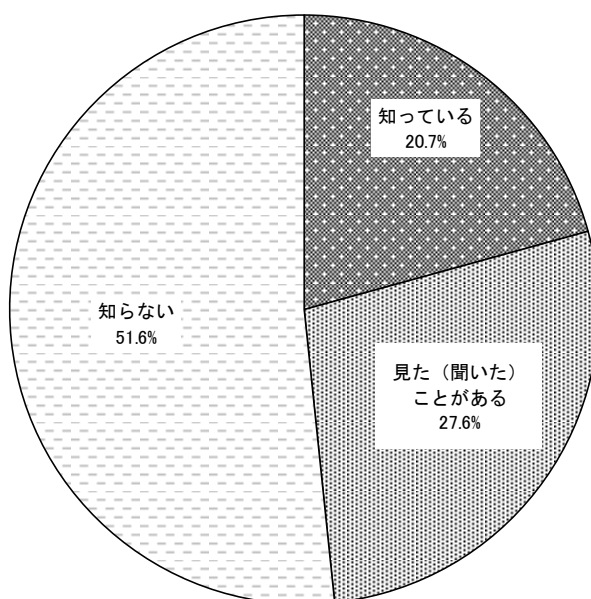
図表 i -21 「本市を含む旧軍港4市（横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市）の日本遺産認定の認知度」（年代別）（n=797）



4 米海軍関係者や市内の外国人家庭との交流、米海軍基地内への就学支援、英語に親しむイベントの開催など、「英語が学べるまち」を目指した取り組み

- ・約半数の回答者が認知している状況（「知っている」（20.7%）、「見た（聞いた）ことがある」（27.6%）の合算）で、前回調査と概ね同じ傾向にある。
- ・年代別では、20 歳代、50 歳代の認知度がやや低いものの、年代による大きな違いはみられない。

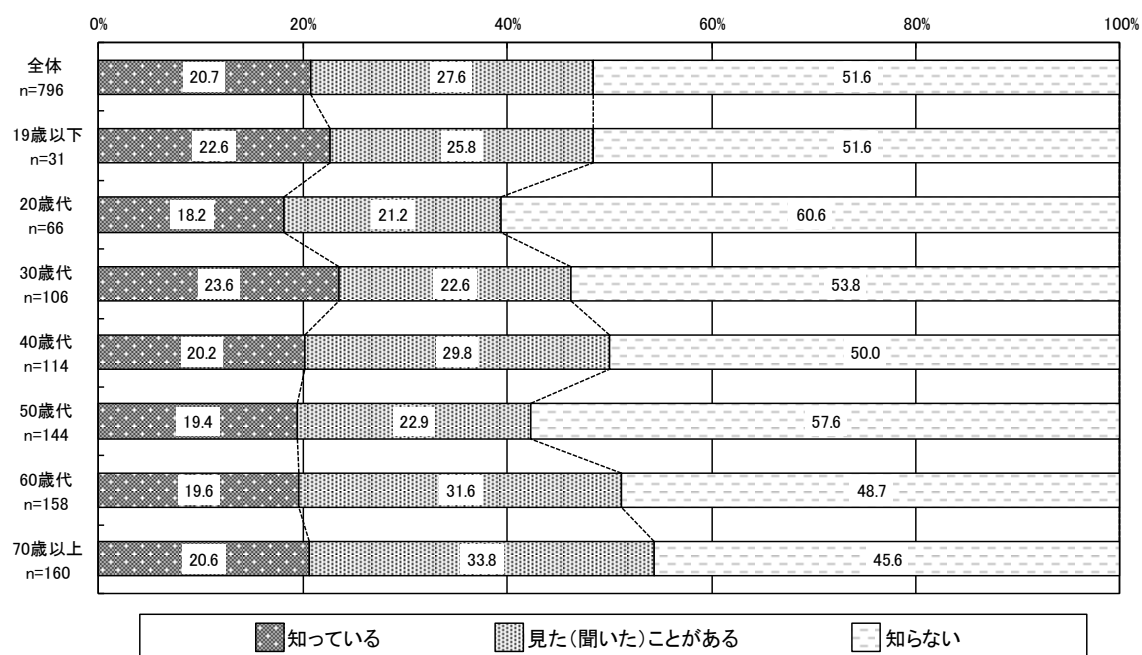
図表 i -22 「英語が学べるまち」を目指した取り組みの認知度（n=796）



図表 i -23 「英語が学べるまち」を目指した取り組みの認知度（H30-29 年度）

調査年度	件数(人)	(%)			
		①知っている	②見た(聞いた)ことがある	③知らない	①+②
30年度	796	20.7	27.6	51.6	48.3
29年度	554	24.0	25.8	50.2	49.8

図表 i -24 「英語が学べるまち」を目指した取り組みの認知度」（年代別）（n=796）

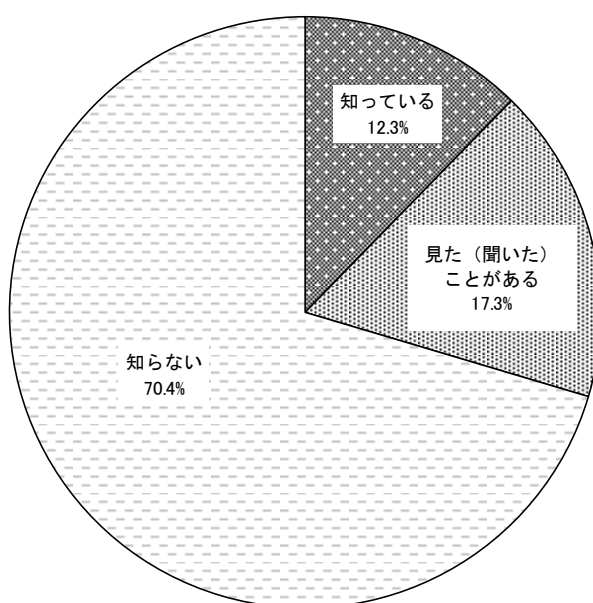


5 2020 年に開設から 300 周年を迎える浦賀奉行所※を中心とした浦賀地域での取り組み

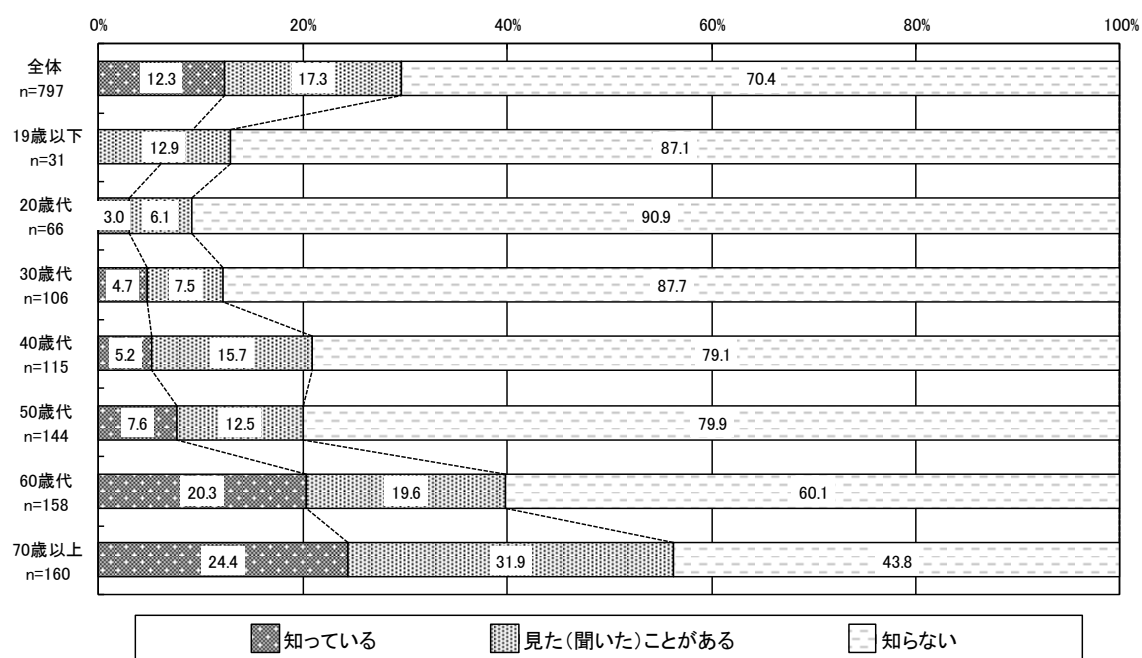
※江戸時代から幕末にかけて浦賀に設置された江戸幕府の遠国奉行の一つで、1853 年のペリー来航時には、浦賀奉行所の役人が日本側の主役として活躍した。

- ・約 3 割の回答者が認知している（「知っている」（12.3%）、「見た（聞いた）ことがある」（17.3%）の合算）。
- ・年代別では、70 歳代の約 6 割、60 歳代の約 4 割に対し、その他の世代はほぼ 2 割以下で、低い状況にある。

図表 i-25 「2020 年に開設から 300 周年を迎える浦賀奉行所を中心とした浦賀地域での取り組みの認知度」（n=797）



図表 i -26 「2020 年に開設から 300 周年を迎える浦賀奉行所を中心とした浦賀地域での取り組みの認知度」(年代別) (n=797)

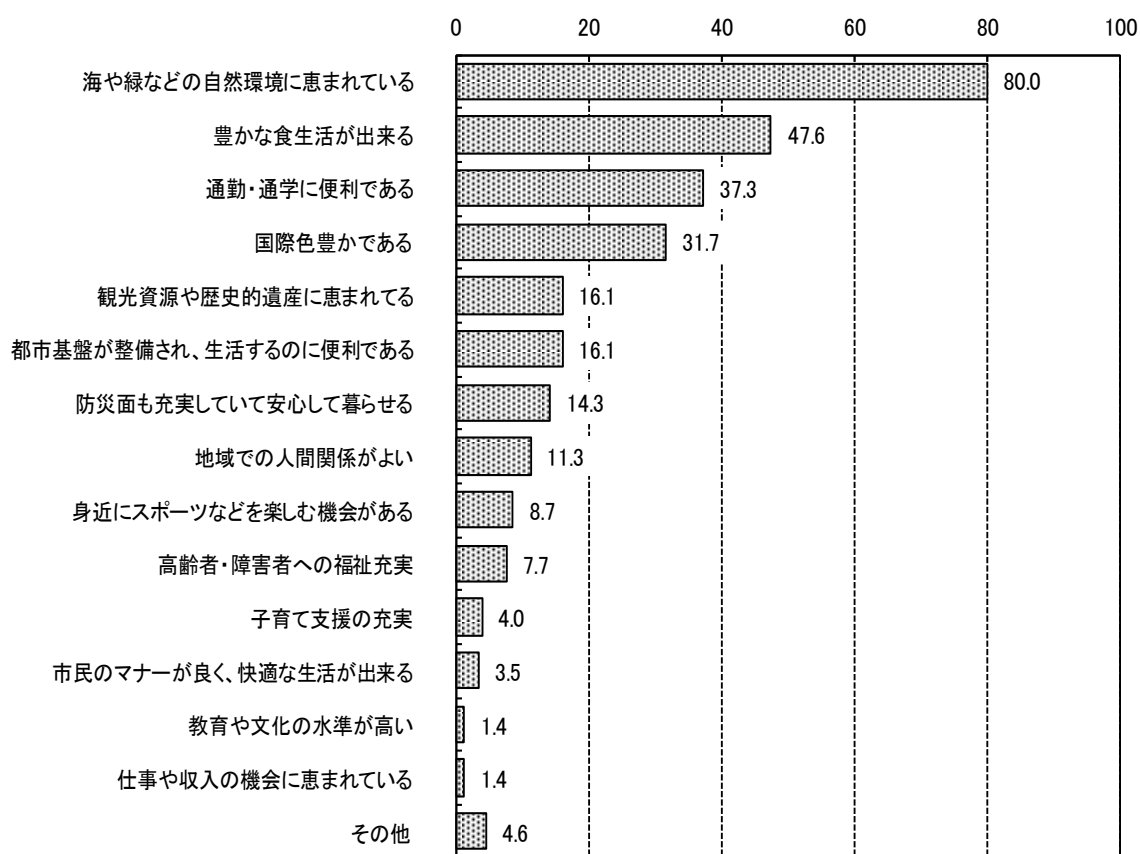


ii 横須賀の魅力について

問3 あなたにとって横須賀の魅力的なところは、どのようなところだと思いますか。

- ・「海や緑などの自然環境に恵まれている」が80.0%で最も多く、次いで、「魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる」(47.6%)、「大都市に近く、通勤・通学に便利である」(37.3%)などが多く挙げられた。
- ・全体として、選択順位に過去の調査との大きな違いはみられないものの、上位3項目のうち「大都市に近く、通勤・通学に便利である」の選択割合が、前回調査と比べて約5ポイント下落した。

図表 ii-1 「横須賀の魅力的なところ」(n=805)



※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表 ii-2 「横須賀の魅力的なところ」(過去調査比較) (n=805)

順位	平成30年5月調査 (n=805)		平成29年1月調査 (n=831)		平成25年1月調査 (n=930)	
	回答項目	割合(%)	回答項目	割合(%)	回答項目	割合(%)
1	海や緑などの自然環境に恵まれている	80.0	海や緑などの自然環境に恵まれている	81.0	海や緑などの自然環境に恵まれている	83.4
2	魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる	47.6	魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる	47.1	魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる	45.2
3	大都市に近く、通勤・通学に便利である	37.3	大都市に近く、通勤・通学に便利である	42.6	大都市に近く、通勤・通学に便利である	43.7

※過去2回は「総合計画市民アンケート」で実施

横須賀の魅力の項目	平成30年5月 (n=805)		平成29年1月 (n=831)		平成25年1月 (n=930)		前回比	前々回比
	順位	割合(%)	順位	割合(%)	順位	割合(%)	H30-29	H30-25
海や緑などの自然環境に恵まれている	1	80.0	1	81.0	1	83.4	▲ 1.0	▲ 3.4
魚貝類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる	2	47.6	2	47.1	2	45.2	0.5	2.4
大都市に近く、通勤・通学に便利である	3	37.3	3	42.6	3	43.7	▲ 5.3	▲ 1.1
国際色豊かである	4	31.7	4	30.3	4	22.9	1.4	8.8
観光資源や歴史的資産に恵まれている	5	16.1	5	16.5	5	18.2	▲ 0.4	▲ 2.1
道路、公園などの都市基盤が整備され、生活するのに便利である	5	16.1	7	11.4	6	16.8	4.7	▲ 0.7
犯罪が少なく、防災面も充実していて安心して暮らせる	7	14.3	6	13.7	9	9.0	0.6	4.7
地域での人間関係がとてもよい	8	11.3	8	11.1	7	12.8	0.2	▲ 1.7
身近でスポーツ・レクリエーションを楽しむ機会に恵まれている	9	8.7	9	8.2	8	12.0	0.5	▲ 3.3
高齢者、障害者などへの福祉が充実している	10	7.7	10	7.2	10	7.4	0.5	0.3
子育てに対する支援が充実している	11	4.0	13	1.8	12	3.0	2.2	1.0
市民のマナーが良く、快適な生活ができる	12	3.5	11	4.6	11	3.2	▲ 1.1	0.3
仕事や収入の機会に恵まれている	13	1.4	12	2.3	13	2.2	▲ 0.9	▲ 0.8
教育や文化の水準が高い	13	1.4	14	1.0	14	1.0	0.4	0.4
その他	—	5.2	—	5.2	—	3.7	0.0	1.5

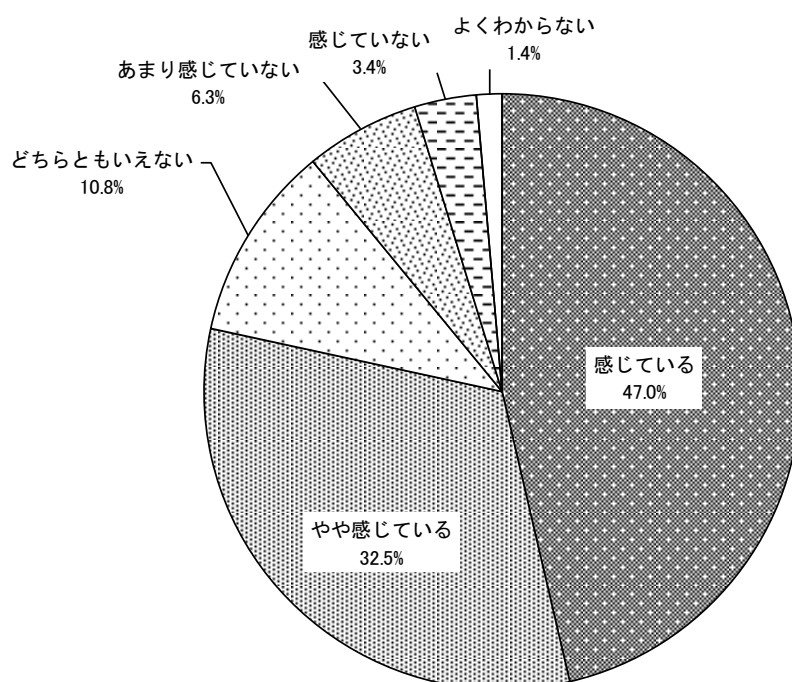
iii 横須賀への愛着や住み良さについて

iii-1 横須賀への愛着について

問4 あなたは横須賀市に自分のまちとしての愛着を感じていますか。

- ・ 8割近くの回答者が、横須賀市に愛着を感じている（「感じている」（47.0%）「やや感じている」（32.5%）の合算）。全体的な傾向として、過去の調査結果と大きな違いはみられない。

図表 iii-1 「横須賀への愛着」（n=804）



図表 iii-2 「横須賀への愛着」（前回調査比較）（n=804）

調査時期	件数 (人)	回答項目・割合 (%)						①+②	④+⑤
		①感じて いる	②やや 感じて いる	③どちらと もいえない	④あまり 感じて いない	⑤感じて いない	⑥よくわか らない		
平成30年 5 月	804	47.0	32.5	10.8	6.3	3.4	1.4	79.5	9.7
平成29年 1 月	835	43.8	33.1	10.4	7.5	4.0	1.2	76.9	11.5
平成25年 1 月	939	47.8	33.5	10.6	4.5	2.3	1.2	81.3	6.8

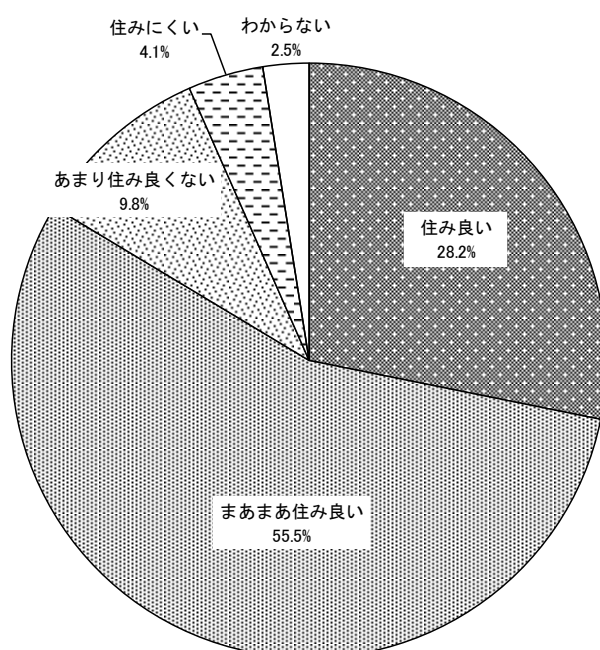
※過去2回は「総合計画市民アンケート」で実施

iii－2 横須賀市の住み良さについて

問5 あなたにとって横須賀市はどの程度住み良いですか。

- ・「住み良い」(28.2%)、「まあまあ住み良い」(55.5%)を合わせると、回答者の83.7%が住み良さを感じている。
- ・年代別では、60歳代(91.5%)、70歳以上(87.1%)、30歳代(82.4%)、50歳代(82.2%)の順に高い。
- ・一方で、20歳代については70.2%で、他の世代と比べて低い状況にある。

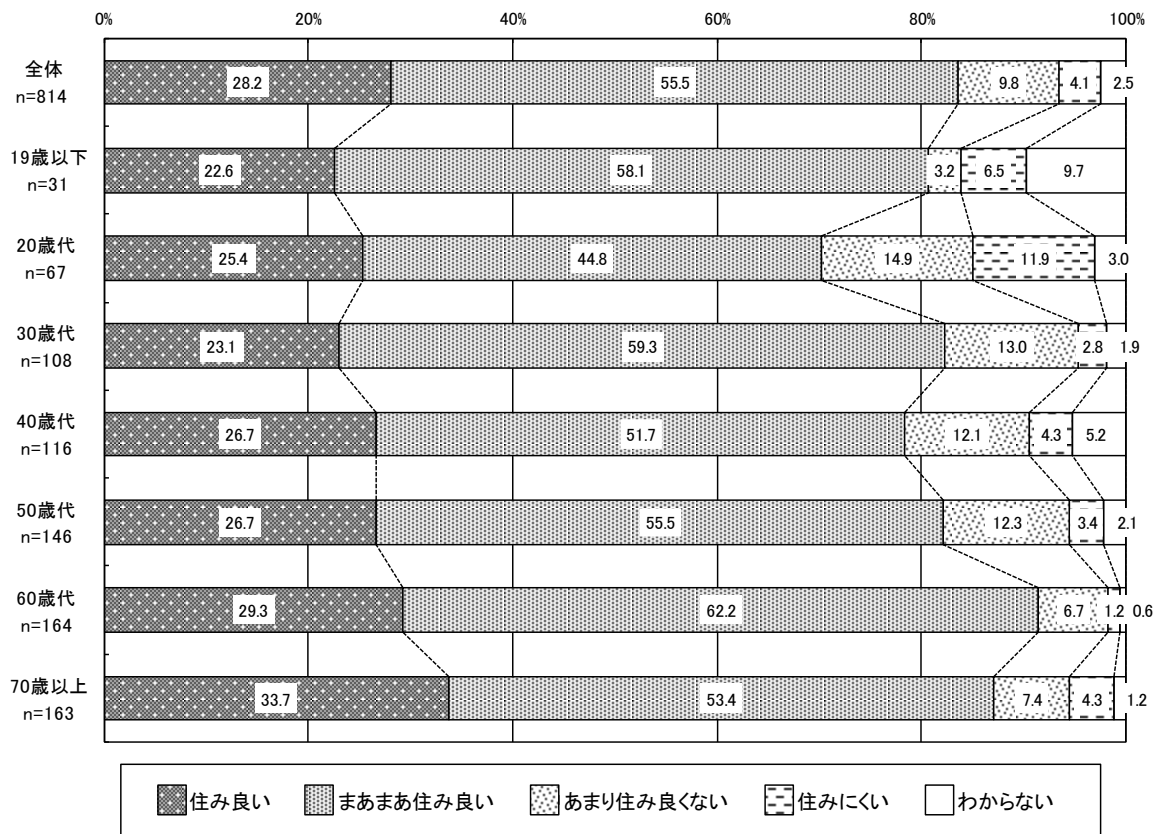
図表 iii－3 「横須賀市の住み良さ」(n=814)



図表 iii－4 「横須賀市の住み良さ」(H30～28年度)

調査年度	件数(人)	(%)					
		①住み良い	②まあまあ住み良い	③あまり住み良くない	④住みにくい	⑤わからない	
30年度	814	28.2	55.5	9.8	4.1	2.5	①+② 83.7 ③+④ 13.9
29年度	564	31.9	51.6	10.5	4.2	1.7	83.5 14.7
28年度	578	27.9	54.8	10.9	3.1	3.3	82.7 14.0

図表 iii-5 「横須賀市の住み良さ」(年代別)(n=814)



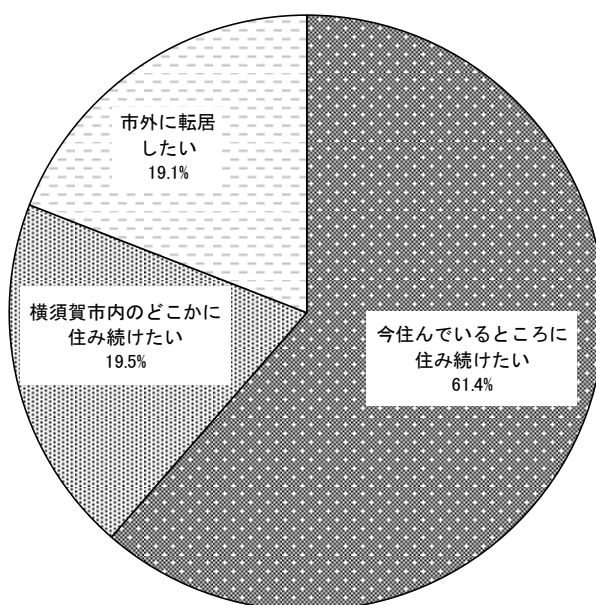
iii－3 横須賀市への定住意識について

(1) 横須賀市への定住意識

問6 あなたは現在の横須賀市に住み続けたいと思いますか。

- ・「今住んでいるところに住み続けたい」(61.4%)、「横須賀市内のどこかに住み続けたい」(19.5%)を合わせると、回答者の80.9%に上り、定住意識の高さがうかがえる。
- ・年代別では、70歳以上(90.8%)、60歳代(89.0%)、50歳代(84.9%)の順に高い。
- ・一方で、19歳以下が60.0%、20歳代が55.2%と、若年層の値が低い状況にある。

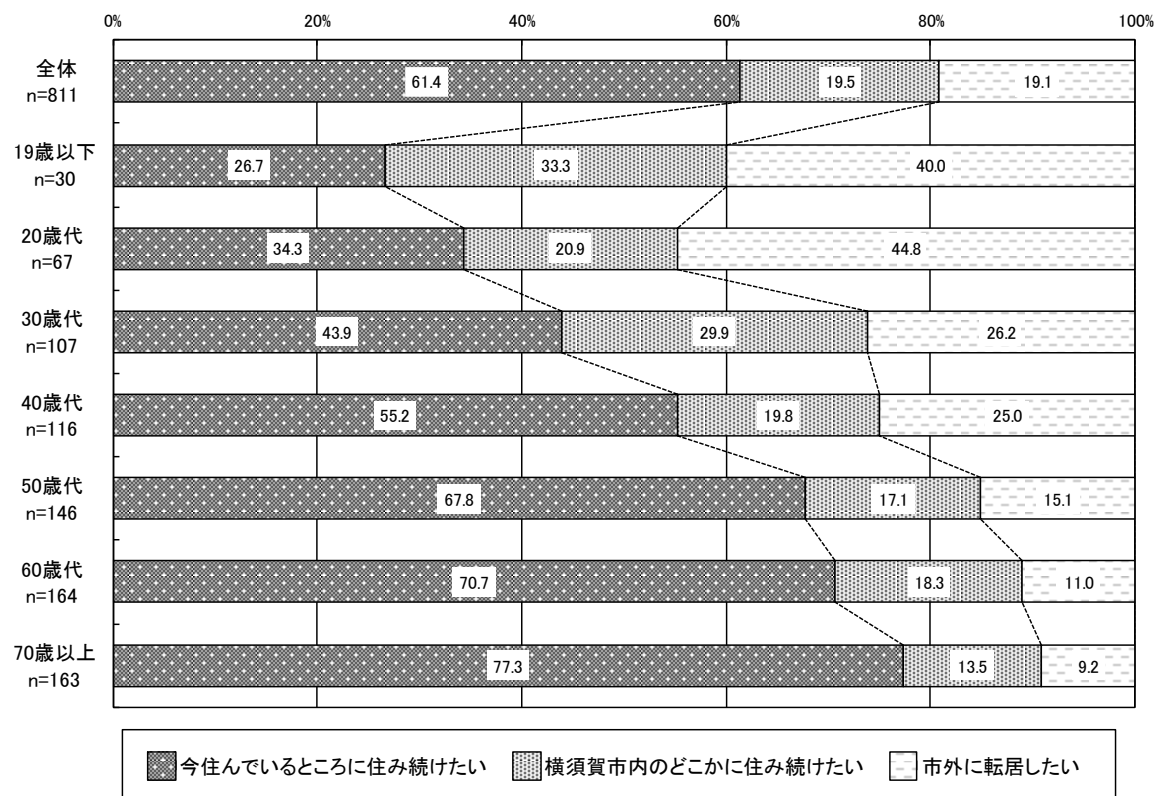
図表 iii-6 「横須賀市への定住意識」(n=811)



図表 iii-7 「横須賀市への定住意識」(H30-28年度)

調査年度	件数(人)	(%)			
		①今住んでいるところに住み続けたい	②横須賀市内のどこかに住み続けたい	③市外に転居したい	①+②
30年度	811	61.4	19.5	19.1	80.9
29年度	560	62.3	21.3	16.4	83.6
28年度	572	64.8	17.5	17.7	82.3

図表 iii-8 「横須賀市への定住意識」(年代別)(n=811)



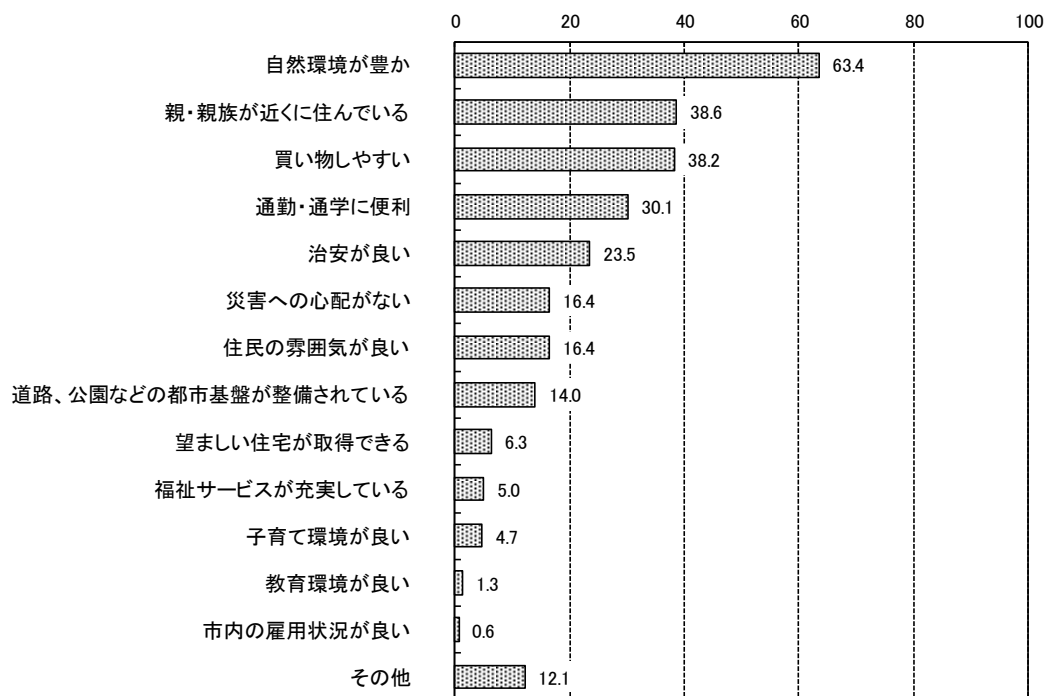
(2) 市内に住み続けたい理由

問7 【問6で「①今住んでいるところに住み続けたい」または「②横須賀市内のどこかに住み続けたい」を選んだ方に伺います。】

市内に住み続けたいと思う理由は何ですか。

- ・「自然環境が豊か」(63.4%)、「親・親族が近くに住んでいる」(38.6%)、「買い物しやすい」(38.2%)の順に多く選択された。
- ・全体的な傾向として、過去の調査結果と大きな違いはみられない。

図表 iii-9 「市内に住み続けたい理由」(n=634)



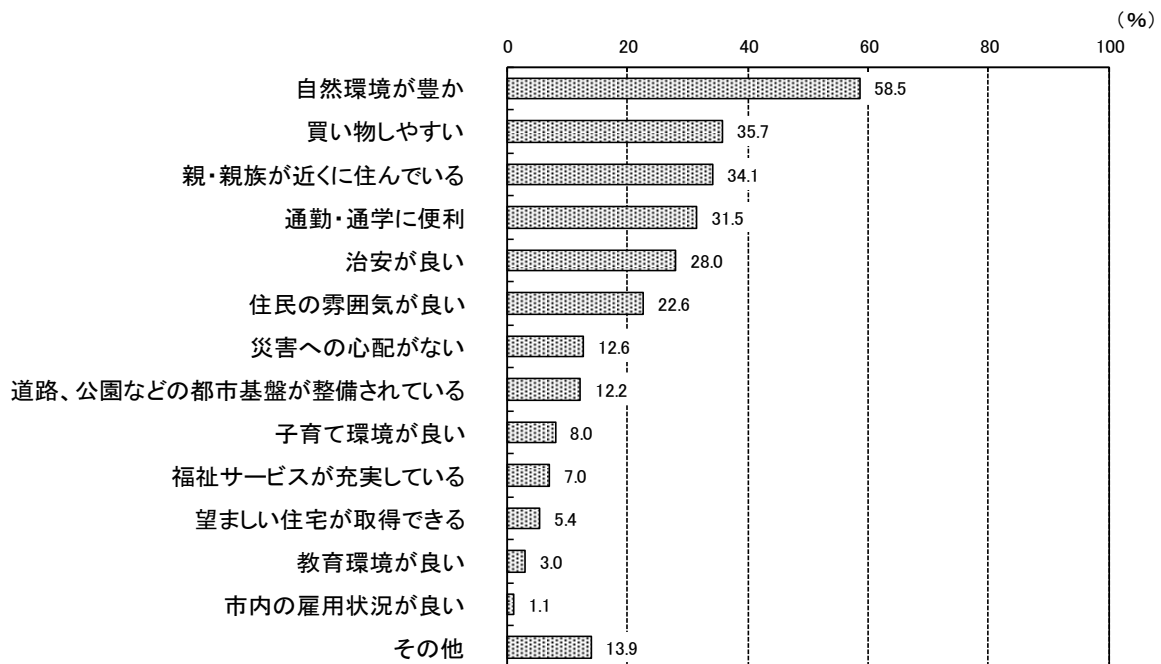
※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表 iii-10 「市内に住み続けたい理由」(選択順位別)

市内に住み続けたい理由	全体		1番目		2番目		3番目	
	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
自然環境が豊か	402	63.4	194	30.6	143	24.7	65	12.8
親・親族が近くに住んでいる	245	38.6	77	12.1	66	11.4	102	20.1
買い物しやすい	242	38.2	47	7.4	126	21.8	69	13.6
治安がよい	149	23.5	72	11.4	30	5.2	47	9.3
通勤・通学に便利	191	30.1	58	9.1	70	12.1	63	12.4
住民の雰囲気がい	104	16.4	17	2.7	32	5.5	55	10.8
災害への心配がない	104	16.4	48	7.6	30	5.2	26	5.1
道路、公園などの都市基盤が整備されている	89	14.0	28	4.4	36	6.2	25	4.9
望ましい住宅が取得できる	40	6.3	8	1.3	20	3.5	12	2.4
子育て環境がよい	30	4.7	22	3.5	3	0.5	5	1.0
福祉サービスが充実している	32	5.0	24	3.8	4	0.7	4	0.8
市内の雇用状況がよい	4	0.6	2	0.3	2	1.1	0	0.0
教育環境がよい	8	1.3	6	0.9	2	0.3	0	0.0
その他	77	12.1	31	4.9	12	2.5	34	6.7
回答数(n)			634	100	576	101	507	100

※回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

(参考) 前回(平成29年度)調査結果(n=468)



※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

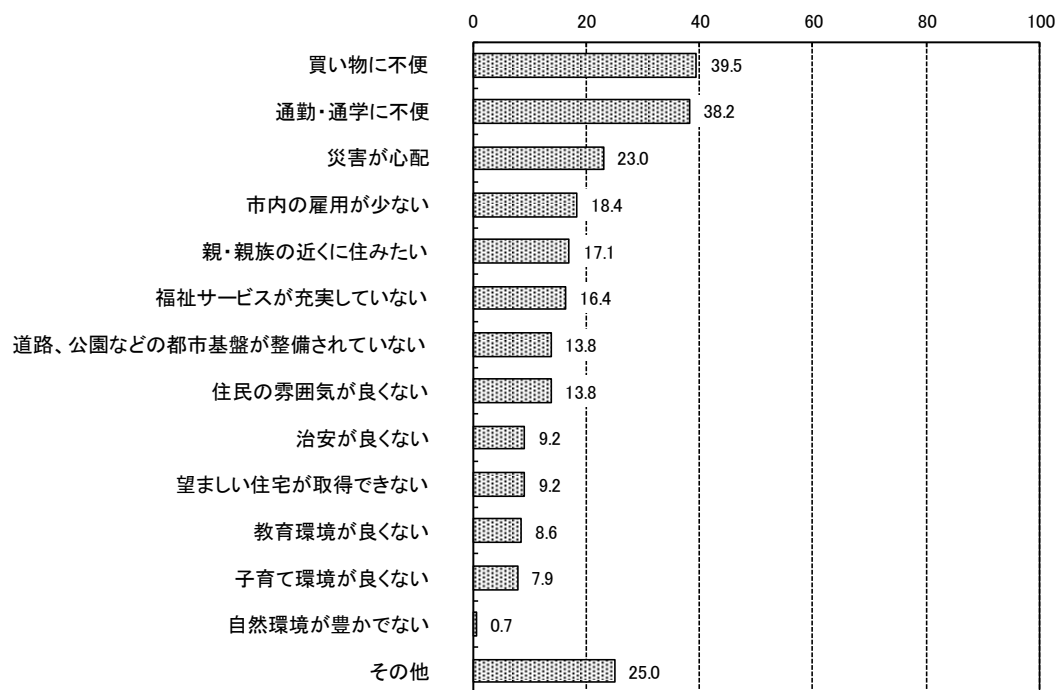
(3) 市外に転居したい理由

問 8 【問 6 で「③市外に転居したい」を選んだ方に伺います。】

市外に転居したいと思う理由は何ですか。

- ・「買い物に不便」(39.5%)、「通勤・通学に不便」(38.2%)、「災害が心配」(23.0%) の順に多く選択された。
- ・選択順位の傾向は過去の調査と概ね同様だが、「通勤・通学に不便」の選択割合が、前回調査(33.7%)と比べて4.5ポイント上昇した。

図表 iii-11 「市外に転居したい理由」(n=152)



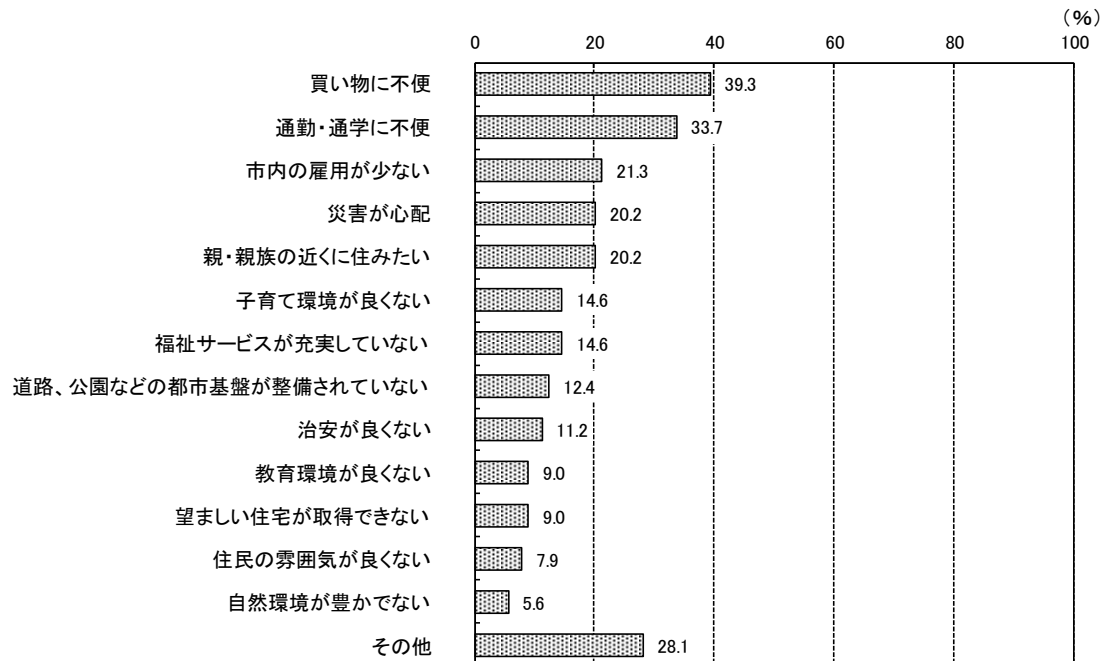
※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表 iii-12 「市外に転居したい理由」(選択順位別)

市外に転居したい理由	全体		1番目		2番目		3番目	
	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
買い物に不便	60	39.5	26	17.1	24	19.4	10	10.9
通勤・通学に不便	58	38.2	31	20.4	15	12.1	12	13.0
災害が心配	35	23.0	15	9.9	12	9.7	8	8.7
親・親族の近くに住みたい	26	17.1	12	7.9	6	4.8	8	8.7
市内の雇用が少ない	28	18.4	5	3.3	20	16.1	3	3.3
道路、公園などの都市基盤が整備されていない	21	13.8	4	2.6	11	8.9	6	6.6
福祉サービスが充実していない	25	16.4	14	9.2	3	2.4	8	8.7
子育て環境が良くない	12	7.9	10	6.6	1	0.8	1	1.1
望ましい住宅が取得できない	14	9.2	4	2.6	5	4.0	5	5.4
住民の雰囲気が良くない	21	13.8	4	2.6	4	3.2	13	14.1
治安が良くない	14	9.2	4	2.6	7	5.6	3	3.3
教育環境が良くない	13	8.6	4	2.6	6	4.8	3	3.3
自然環境が豊かでない	1	0.7	0	0.0	0	0.0	1	1.1
その他	38	25.0	19	12.5	9	8.1	10	10.9
回答数(n)			152	99.9	123	100	91	104

※回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

(参考) 前回(平成29年度)調査結果(n=92)



※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

iv 基本計画に掲げた重点プログラムに対する実感について

問9～問19では、横須賀市基本計画（2011～2021）に掲げた5つの重点プログラムの取り組みの方向性について、以下のとおり設問し、その実感を尋ねた。

（1）現在について

重点プログラムの取り組みの方向性で掲げた状態にあるか

⇒「①思う」「② やや思う」「③どちらともいえない」「④ あまり思わない」

「⑤思わない」の5段階と、「⑥わからない」を設定

（2）以前との比較

重点プログラムの取り組みの方向性に向かって

⇒「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」「③変わっていない」

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」の5段階と、

「⑥わからない」を設定

《横須賀基本計画（2011～2021）に掲げた重点プログラム》

重点プログラム		取り組みの方向性	
1	新しい芽を育む	1－1	子どもを産み育てやすいまちづくり
		1－2	人間性豊かな子どもの育成
2	命を守る	2－1	誰もが活躍できるまちづくり
		2－2	安全で安心なまちづくり
3	環境を守る	3－1	人と自然が共生するまちづくり
		3－2	地球環境に貢献するまちづくり
4	にぎわいを生む	4－1	地域経済の活性化と雇用の創出
		4－2	集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり
5	地域力を育む	5－1	地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり
		5－2	地域を支えるコミュニティー機能の強化

調 査 結 果 の 見 方

本調査では、設問に対する回答者の傾向を観察するため、DI（ディフュージョンインデックス 景気動向指数／拡散指数）の考え方を利用しており、

$$\text{プラスの回答ポイント} - \text{マイナスの回答ポイント} = \text{DI}$$

として記述している。

なお、集計に当たっては、「⑥わからない」と「無回答」を除いて、回答割合を算出している。

※DI とは、「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して得られた指数をいう。マイナス 100 からプラス 100 の間を取る。

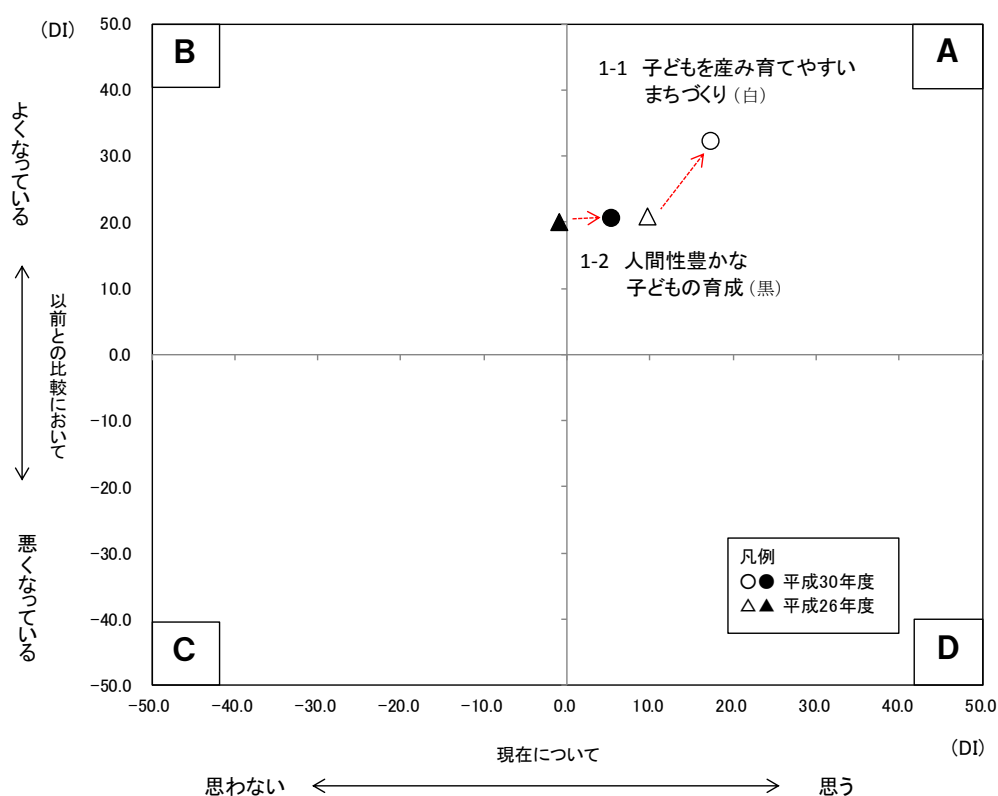
- ◆ DI がプラス : アンケート回答者の実感が、良好・改善の傾向にある
- ◆ DI がマイナス : アンケート回答者の実感が、良好でない・後退の傾向にある

重点プログラム1 『新しい芽を育む』
～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～

- 1-1 問9 横須賀市は、「子どもを産み育てやすいまち」だと思いますか。
 1-2 問10 横須賀市は、「人間性豊かな子どもの育成」が進められているまちだと思いますか。

1 平成30年度調査と平成26年度調査との比較

図表iv-1 「重点プログラム1の取り組みの方向性の状況」(H30-26年度比較)



(1) 1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

今回調査の DI は「現在について」「以前との比較」とともに大きくプラスで、平成 26 年度調査と比べてともに数値が上昇している。

主な回答理由では、小児医療費助成についての記載が多く見られることから、当該施策の充実（助成対象年齢の拡大）が回答者の実感に影響を与えていると考えられる。

(ポイント)

	調査年度	件数(人)	①思う + ②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない + ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
現在	30年度	558	41.8	34.1	24.2	17.6	7.9
	29年度	407	42.5	29.5	28.0	14.5	
	28年度	404	52.2	25.0	22.8	29.4	
	27年度	481	40.5	28.1	31.4	9.1	
	26年度	515	40.6	28.5	30.9	9.7	
以前との 比較	調査年度	件数(人)	①よくなっている + ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている + ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	430	43.3	45.6	11.2	32.1	11.2
	29年度	328	38.7	50.3	11.0	27.7	
	28年度	330	47.6	36.7	15.8	31.8	
	27年度	413	41.7	40.9	17.4	24.3	
	26年度	421	39.2	42.5	18.3	20.9	

(回答理由分類については p. 35 参照)

(2) 1-2 人間性豊かな子どもの育成

今回調査の DI は「現在について」「以前との比較」とともにプラスで、「現在について」は、平成 26 年度調査と比べて数値が上昇している。

また、「以前との比較」については、プラス 20 ポイント以上の値を維持しており、実感が得られているとみることができる。

(ポイント)

	調査年度	件数(人)	①思う + ②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない + ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
現在	30年度	477	33.3	39.0	27.7	5.6	6.5
	29年度	369	34.4	35.0	30.6	3.8	
	28年度	372	37.4	33.6	29.0	8.4	
	27年度	439	32.8	32.8	34.4	▲ 1.6	
	26年度	452	32.3	34.5	33.2	▲ 0.9	
以前との 比較	調査年度	件数(人)	①よくなっている + ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている + ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	356	30.3	59.8	9.8	20.5	0.3
	29年度	289	33.6	54.7	11.8	21.8	
	28年度	292	39.4	45.9	14.7	24.7	
	27年度	359	32.8	54.3	12.8	20.0	
	26年度	377	33.2	53.8	13.0	20.2	

(回答理由分類については p. 37 参照)

2 回答理由分類

(1) 1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
子育て支援施策や助成等の充実	42	20.0
小児医療費助成	(25)	
自然が多い、海・山がある、気候が温暖など自然環境の充実	36	17.1
子どもを預ける場の充実	28	13.3
保育園・幼稚園の充実、待機児童数が少ない	(17)	
放課後児童クラブ(学童クラブ)の充実	(6)	
環境がよい、子育てで不便を感じない	18	8.6
子育て関連施設や公園などの遊び場の充実	15	7.1
公園の充実	(12)	
教育環境の充実、学校が近い	12	5.7
病院など医療体制の充実	9	4.3
治安がよい、安全	6	2.9
生活がしやすい、住みやすい	6	2.9
子どもを見かける、若い世帯の増加	5	2.4
地域性・市民性(のんびり、穏やか)、都会と田舎の両面性	5	2.4
ボランティアや地域の子育て支援体制の充実、地域力が高い	4	1.9
その他、意見等	19	9.0
否定的な回答理由	5	2.4
	210	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
病院など医療体制が不十分(医師数を含む)	26	21.7
産科が不十分	(19)	
出産、保育、教育にかかる費用が高い、助成などの支援が不十分	18	15.0
子どもを預ける場が不十分	12	10.0
保育園・幼稚園が不十分	(5)	
放課後児童クラブ(学童クラブ)が不十分	(3)	
他都市との比較によるサービスの不足、遅れている	11	9.2
子育て関連施設の不足、公園や遊び場の不足	8	6.7
施策が不十分	8	6.7
中学校給食がない	(2)	
人口減少、若年層の減少	7	5.8
子どもが少ない、見かけない	7	5.8
教育施設が不十分、教育の質がよくない	5	4.2
雇用が少ない、市内で働いて子育てができない	3	2.5
その他、意見等	15	12.5
	120	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと言くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
子育て支援施策や助成の充実	51	35.4
小児医療費助成	(40)	
子どもを預ける場の充実	18	12.5
幼稚園・保育園の充実、待機児童の減少	(10)	
放課後児童クラブ（学童クラブ）の充実	(7)	
子育て関連施設や公園などの遊び場の充実	17	11.8
公園の充実	(10)	
全体的によくなっていると感じる	12	8.3
教育環境の充実	8	5.6
ボランティアや地域の子育て支援体制の充実	6	4.2
産科の増加など医療体制の充実	6	4.2
市の努力が見える	4	2.8
子どもを見かける、若い世帯の増加	3	2.1
その他、意見等	17	11.8
否定的な回答理由	2	1.4
	144	100

「④どちらかというと言くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口減少、若年層の減少	12	26.1
病院など医療体制が不十分	11	23.9
産科が不十分	(7)	
子どもを預ける場が少ない、保育園の不足	4	8.7
子育てマナーの低下	3	6.5
施策の成果が見えない、変化を感じない	3	6.5
雇用が少ない、市内で働いて子育てができない	3	6.5
子育て関連施設や遊び場の不足、未整備	2	4.3
その他、意見等	8	17.4
	46	100

(2) 1-2 人間性豊かな子どもの育成

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	49	40.8
教育環境の充実、学力向上に向けた取り組み	(26)	
国際コミュニケーション能力育成 (ALTほか)	(13)	
中学校完全給食の導入に向けた取り組み	(3)	
子どもたちの様子から感じられる	12	10.0
元気、のびのびしている	(2)	
あいさつをしてくれる	(3)	
国際色豊か、外国人との交流ができる	10	8.3
地域の見守り・支援体制の充実、学校と地域の連携	7	5.8
地域性・市民性がよい、ゆったりとした環境	7	5.8
公園など遊び場の充実、子育て・社会教育施設の充実	6	5.0
自然環境がよい	4	3.3
子どものためのイベントが多い	3	2.5
その他、意見等	19	15.8
否定的な回答理由	3	2.5
	120	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の具体的な内容・成果が見えない、実感がない	25	30.9
教育環境、教育施策が不十分	16	19.8
施策が不十分、考え方・方向性に疑問がある	8	9.9
大人・親がよくない	6	7.4
子どもたちの様子から感じられる	5	6.2
人口減少、若年層が増えない	4	4.9
公園などの遊び場が不十分、子育て・社会教育施設が不十分	2	2.5
子育て世帯への支援が不十分	2	2.5
その他、意見等	13	16.0
	81	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の充実	28	44.4
中学校完全給食の導入に向けた取り組み	(10)	
教育環境の充実、学力向上に向けた取り組み	(7)	
全体的によくなっていると感じる	6	9.5
公園など遊び場の充実、子育て・社会教育施設の充実	5	7.9
子どもたちの様子から感じられる	5	7.9
地域の見守り・支援体制の充実、学校と地域の連携	4	6.3
子どもが参加できるイベントの増加	4	6.3
市の努力が見える	2	3.2
その他、意見等	8	12.7
否定的な回答理由	1	1.6
	63	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
大人・親がよくない	4	13.3
子どもたちの様子から感じられる	4	13.3
人口減少、子どもを見かけない	3	10.0
施策の具体的な内容・成果が見えない、実感がない	2	6.7
教育環境、教育施策が不十分	2	6.7
人間関係の希薄化	2	6.7
その他、意見等	13	43.3
	30	100

重点プログラム2 『命を守る』

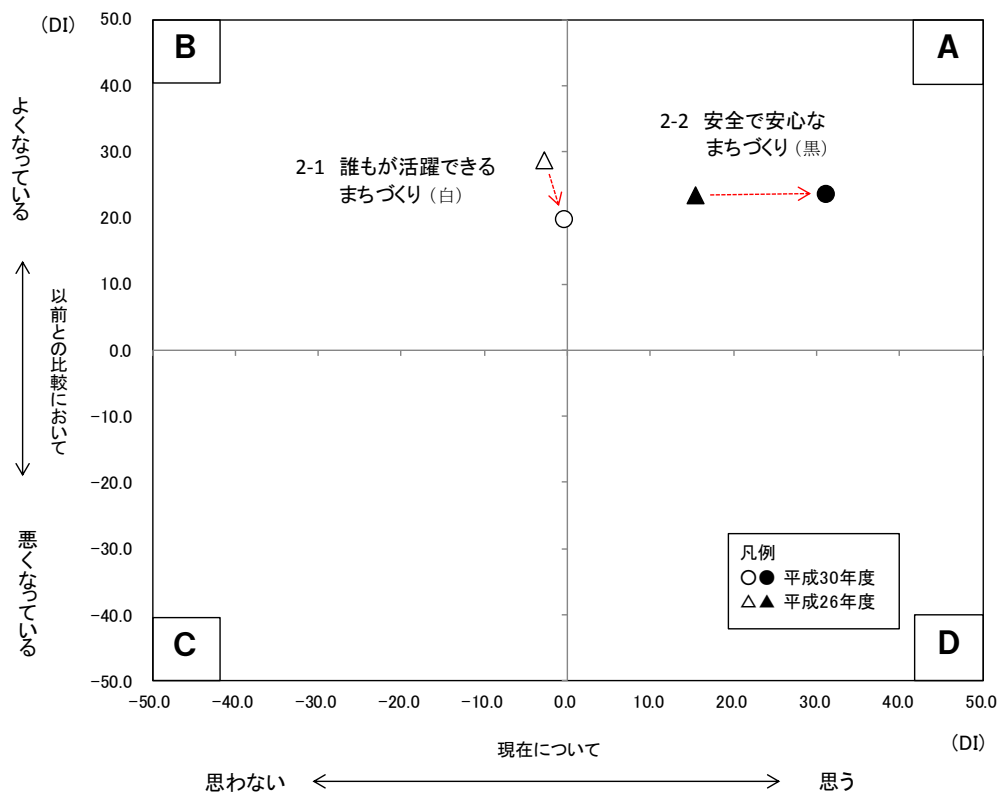
～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～

2-1 問11 横須賀市は、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、いきいきと暮らせる「誰もが活躍できるまち」だと思いますか。

2-2 問12 横須賀市は、「安全で安心なまち」だと思いますか。

1 平成30年度調査と平成26年度調査との比較

図表iv-2 「重点プログラム2の取り組みの方向性の状況」(H30-26年度比較)



(1) 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

今回調査のDIは「現在について」がマイナス、「以前との比較」がプラスで、特に「以前との比較」については約20ポイントの高い値を示している。ただし、平成26年度調査と比べると「以前との比較」の値が下落しており、今後の動向に留意する必要がある。

(ポイント)							
現在	調査年度	件数(人)	①思う + ②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない + ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	608	32.9	34.0	33.1	▲ 0.2	2.6
	29年度	465	35.1	30.8	34.2	0.9	
	28年度	478	31.6	32.6	35.8	▲ 4.2	
	27年度	577	34.3	31.0	34.7	▲ 0.4	
	26年度	577	33.3	30.7	36.1	▲ 2.8	
以前との 比較	調査年度	件数(人)	①よくなっている + ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている + ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	457	29.1	61.5	9.4	19.7	▲ 9.1
	29年度	360	38.6	50.6	10.8	27.8	
	28年度	385	35.8	49.6	14.5	21.3	
	27年度	465	36.6	53.1	10.4	26.2	
	26年度	480	39.2	50.4	10.4	28.8	

(回答理由分類については p. 41 参照)

(2) 2-2 安全で安心なまちづくり

今回調査のDIは「現在について」「以前との比較」とともに大きくプラスで、特に「現在について」は、平成26年度調査と比べて数値が大幅に上昇している。

主な回答理由では、「犯罪・事件が少ない、治安がよい」が最も多く挙げられている。

(ポイント)							
現在	調査年度	件数(人)	①思う + ②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない + ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	752	52.7	25.9	21.4	31.3	15.8
	29年度	536	46.5	25.0	28.5	18.0	
	28年度	544	47.4	26.7	25.9	21.5	
	27年度	675	45.6	26.2	28.1	17.5	
	26年度	688	44.3	26.9	28.8	15.5	
以前との 比較	調査年度	件数(人)	①よくなっている + ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている + ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	614	33.1	57.3	9.6	23.5	0.0
	29年度	456	35.1	50.9	14.0	21.1	
	28年度	473	39.7	47.4	12.9	26.8	
	27年度	586	35.8	49.3	14.8	21.0	
	26年度	601	38.0	47.6	14.5	23.5	

(回答理由分類については p. 43 参照)

2 回答理由分類

(1) 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢者・障害者・健康増進施策の充実、支援体制の整備	29	23.4
健康増進施策（ラジオ体操、市民スポーツなど）	(6)	
高齢者・介護施策	(6)	
障害者施策、特別支援教育	(11)	
就労場所の増加	18	14.5
障害者の就労場所・就労者の増加、就労の様子を見て	(12)	
元気な人が多い	11	8.9
介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実	9	7.3
活躍している、活躍する人・場の増加	7	5.6
市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加	(2)	
高齢者や障害者への配慮ができて、思いやりがある	7	5.6
高齢者・障害者の外出が多い	5	4.0
検診事業、病院など医療体制の充実	5	4.0
バリアフリー対策等	4	3.2
本人の意思があれば活躍できる	3	2.4
暮らしやすい、不自由・不便さを感じない	3	2.4
その他、意見等	21	16.9
否定的な回答理由	2	1.6
	124	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の具体的な内容・成果が見えない、実感がない	20	15.6
バリアフリー対策が不十分、坂・階段が多い、交通が不便	18	14.1
高齢者・障害者施策、支援体制や助成が不十分	14	10.9
雇用・企業の減少	12	9.4
活躍の場が少ない、活躍しているのは一部の人のみ	11	8.6
弱者に冷たい、理解がない、孤立化	7	5.5
他都市と比較して劣っている、他都市と同じ	6	4.7
まちが衰退している、活気がない	5	3.9
高齢化、若年層が少ない	5	3.9
雇用の偏り	4	3.1
PR、情報発信不足	3	2.3
差別・偏見がある	3	2.3
その他、意見等	20	15.6
	128	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢者・障害者・健康増進施策の充実、支援体制の整備	17	22.7
障害者施策	(6)	
健康増進施策（ラジオ体操、市民スポーツなど）	(7)	
活躍している、活躍する人・場の増加	13	17.3
市民活動・ボランティア活動で活躍する人の増加	(2)	
全体的によくなっている	8	10.7
福祉への理解・意識の向上、やさしくなった	7	9.3
バリアフリー対策等	6	8.0
市の努力が見える	4	5.3
介護老人福祉施設、障害者支援施設など施設の充実	4	5.3
イベント・講座の増加	3	4.0
防災対策など安全・安心面の充実	3	4.0
その他、意見等	8	10.7
否定的な回答理由	2	2.7
	75	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢化、子ども・若年層が少ない	5	16.1
施策の具体的な内容・成果が見えない、実感がない	5	16.1
まちが衰退している、活気がない	5	16.1
その他、意見等	16	51.6
	31	100

(2) 2-2 安全で安心なまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件が少ない、治安がよい	103	41.7
不安や危険を感じない、安心して生活できている	45	18.2
地域、自治会、ボランティアによる安全対策の充実	17	6.9
防犯パトロール	(4)	
街路防犯灯	(2)	
気候が温暖で災害が少ない	16	6.5
地域の人間関係のつながり、意識の向上、市民共助	15	6.1
防災・災害対策の充実	11	4.5
警察の存在、警察による巡回、米軍・自衛隊の存在	6	2.4
防犯設備、防犯体制の充実	4	1.6
他都市と比較してよい	4	1.6
交通安全対策の充実、事故の減少、通学路・道路整備	3	1.2
その他、意見等	17	6.9
否定的な回答理由	6	2.4
	247	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件が多い、治安が悪い、不審者がいる	35	28.2
不審者がいる	(7)	
暴走族、若年層のバイク暴走、夜遊び	(2)	
街路防犯灯が少ない、夜道が暗い	(3)	
米軍、原子力空母、核燃料関連施設、外国からの攻撃の恐れ	16	12.9
山・崖の多さや地震・津波などの災害への不安	16	12.9
通学路・歩道・道路の整備が不十分	12	9.7
外国人、米軍人の存在、それらによる事件	11	8.9
事故が多い、交通マナーが悪い、路上駐車が多い	7	5.6
防災・災害対策が不十分	6	4.8
防犯設備、防犯体制が不十分	5	4.0
警察の巡回・対応が不十分、交番の場所が分からない	3	2.4
地域関係の希薄化	3	2.4
その他、意見等	10	8.1
	124	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件の減少、治安がよい	26	22.8
防災・災害対策の充実	20	17.5
崖地・急傾斜地崩壊対策	(8)	
改善されている、以前からよい	20	17.5
防犯設備、防犯体制の充実	11	9.6
街路防犯灯の設置	(6)	
交通安全対策の充実、通学路・道路整備	9	7.9
地域の人間関係のつながり、意識の向上、市民共助	8	7.0
地域、自治会、ボランティアによる安全対策の充実	8	7.0
施策の充実	3	2.6
その他、意見等	7	6.1
否定的な回答理由	2	1.8
	114	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪・事件の増加、治安が悪い、不審者がいる	17	37.0
米軍基地がある、外国からの攻撃の恐れ	6	13.0
津波などの災害への不安	3	6.5
空き家の増加	3	6.5
通学路・道路・歩道の整備が不十分	2	4.3
防災・災害対策が不十分	2	4.3
全体的に悪くなっている	2	4.3
その他、意見等	11	23.9
	46	100

重点プログラム3 『環境を守る』

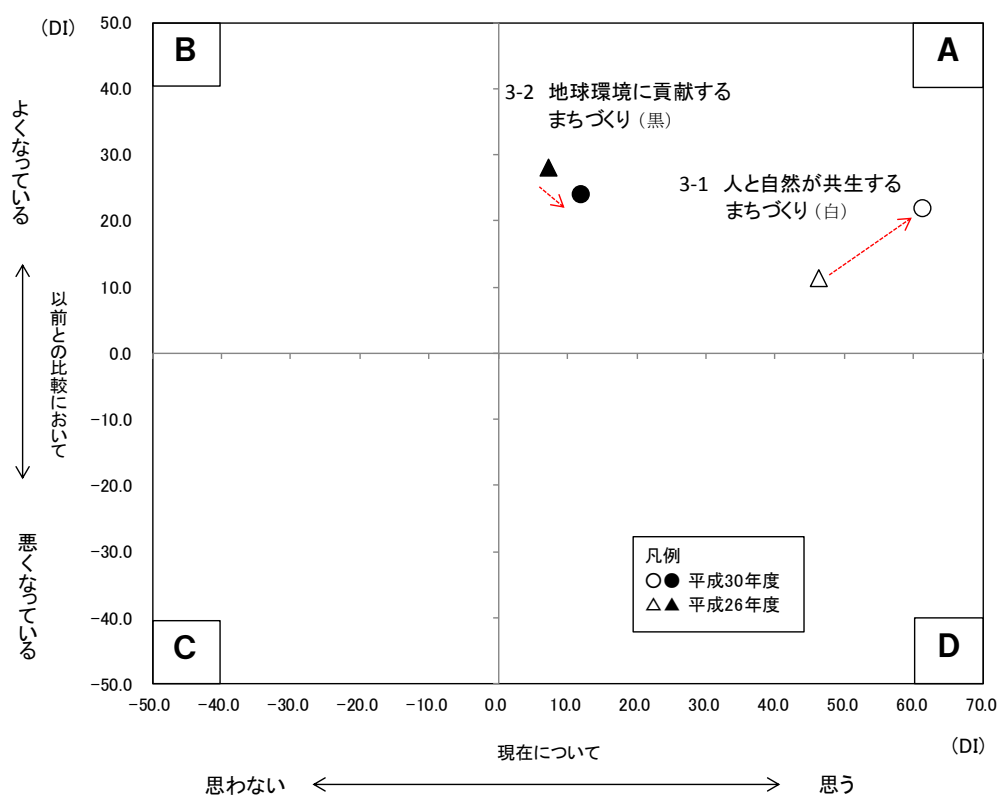
～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～

3-1 問13 横須賀市は、「人と自然が共生するまち」だと思いますか。

3-2 問14 横須賀市は、「地球環境に貢献するまちづくり」が進められているまちだと思いますか。

1 平成30年度調査と平成26年度調査との比較

図表iv-3 「重点プログラム3の取り組みの方向性の状況」(H30-26年度比較)



(1) 3-1 人と自然が共生するまちづくり

今回調査の DI は「現在について」「以前との比較」とともに DI は大きくプラスで、特に「現在について」は 60 ポイントを超える高い値を示し、良好な状態である。

また、平成 26 年度調査と比べても「現在について」「以前との比較」とともに数値が大幅に上昇している。

(ポイント)							
現在	調査年度	件数(人)	①思う + ②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない + ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	726	72.3	16.9	10.7	61.6	15.1
	29年度	519	70.9	15.0	14.1	56.8	
	28年度	547	65.4	17.6	17.0	48.4	
	27年度	651	67.4	14.0	18.5	48.9	
	26年度	667	66.1	14.2	19.6	46.5	
以前との 比較	調査年度	件数(人)	①よくなっている + ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている + ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	594	34.8	52.2	13.0	21.8	10.5
	29年度	445	35.7	48.3	16.0	19.7	
	28年度	476	33.6	47.9	18.5	15.1	
	27年度	579	34.2	45.1	20.7	13.5	
	26年度	599	33.5	44.2	22.2	11.3	

(回答理由分類については p. 47 参照)

(2) 3-2 地球環境に貢献するまちづくり

今回調査の DI は「現在について」「以前との比較」とともにプラスで、特に「以前との比較」については平成 26 年度と比べて数値がやや下落しているものの、プラス 20 ポイントを超える値を維持しており、高い実感が得られている状況にある。

(ポイント)							
現在	調査年度	件数(人)	①思う + ②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない + ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	601	40.4	31.4	28.1	12.3	4.9
	29年度	451	41.7	30.6	27.7	14.0	
	28年度	441	35.4	33.8	30.8	4.6	
	27年度	549	40.9	30.2	28.8	12.1	
	26年度	565	40.3	26.7	32.9	7.4	
以前との 比較	調査年度	件数(人)	①よくなっている + ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている + ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	493	33.7	56.4	9.9	23.8	▲ 4.3
	29年度	370	34.6	57.6	7.8	26.8	
	28年度	375	32.5	56.8	10.7	21.8	
	27年度	470	40.7	51.7	7.6	33.1	
	26年度	501	40.5	47.1	12.4	28.1	

(回答理由分類については p. 49 参照)

2 回答理由分類

(1) 3-1 人と自然が共生するまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
海や山などの自然が多い、緑豊か、気候がよい	133	39.2
自然環境の整備・保護、環境施策の増加、推進	57	16.8
自然を身近に感じる・ふれあえる機会が多い	54	15.9
公園・海岸・遊歩道・散策コース等の整備	32	9.4
まちづくりがよい、環境がよい、暮らしやすい	11	3.2
自然を生かした施設や取り組みが多い、イベントがある	10	2.9
農産物、海産物が多い	7	2.1
農漁業を職業にしている人が多く、自然を大切にしていると感じる	4	1.2
利便性と自然の両立、首都圏でありながら自然が多い	4	1.2
他都市と比較して自然が多い	3	0.9
その他、意見等	23	6.8
否定的な回答理由	1	0.3
	339	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然の減少、自然破壊	24	43.6
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化	(18)	
施策が不十分、具体的な内容・成果が見えない、実感がない	10	18.2
ごみのポイ捨てや不法投棄などマナーが悪い	3	5.5
自然とふれあえる場所や機会の減少、自然が活用されていない	2	3.6
自然を身近に感じない	2	3.6
環境整備が行き届いていない、不十分	2	3.6
管理目的で自然が減少している	2	3.6
その他、意見等	10	18.2
	55	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然を生かした施設や取り組み、イベントが増えた	22	22.4
公園・海岸・遊歩道・散策コース等の整備	19	19.4
全体的によくなっている	14	14.3
自然環境の整備・保護、環境施策の増加、推進	9	9.2
海・山など自然が多い	8	8.2
市全体で努力している	6	6.1
海・河川がきれいになった	3	3.1
まちなかのみどりや花の増加	3	3.1
その他、意見等	13	13.3
否定的な回答理由	1	1.0
	98	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然の減少、自然破壊	42	66.7
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊・景観の悪化	(29)	
自然環境の保護・保全、環境施策が不十分	6	9.5
管理目的で自然が減少している	2	3.2
その他、意見等	13	20.6
	63	100

（２）３－２ 地球環境に貢献するまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
分別・リサイクルの徹底、ごみ処理施設の充実（アイクル）	95	55.6
ごみ処理施設の建設	(1)	
地域活動・市民活動・ボランティア活動が盛ん	13	7.6
環境施策、取り組みの充実	13	7.6
ごみ・たばこのポイ捨ての減少、ポイ捨て防止活動・啓発	12	7.0
市民への意識啓発、ごみ分別パンフレット・アプリの充実	9	5.3
自然が多い、まちなかのみどりが多い	7	4.1
環境教育の充実、小学生のアイクル見学	5	2.9
自然環境の整備・保護	5	2.9
他都市と比べてよい	5	2.9
その他、意見等	7	4.1
	171	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の具体的な内容・成果が見えない、実感がない	29	34.5
環境破壊、自然の減少、自然破壊	12	14.3
環境施策や取り組みが不十分	10	11.9
ごみ・たばこのポイ捨てなどマナーが悪い、まちが汚い	10	11.9
基地、核燃料関連施設がある	4	4.8
その他、意見等	19	22.6
	84	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
分別・リサイクルの徹底、ごみ処理施設の充実	34	37.4
意識啓発の効果、市民の意識向上	12	13.2
ごみ・たばこのポイ捨ての減少、まちがきれいになった	9	9.9
環境施策、取り組みの充実	7	7.7
全体的によくなっている	6	6.6
地域活動やボランティア活動が盛ん	4	4.4
自然環境の整備・保護、緑化	4	4.4
路上禁煙地区の拡大	3	3.3
環境教育の充実	2	2.2
その他、意見等	10	11.0
	91	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

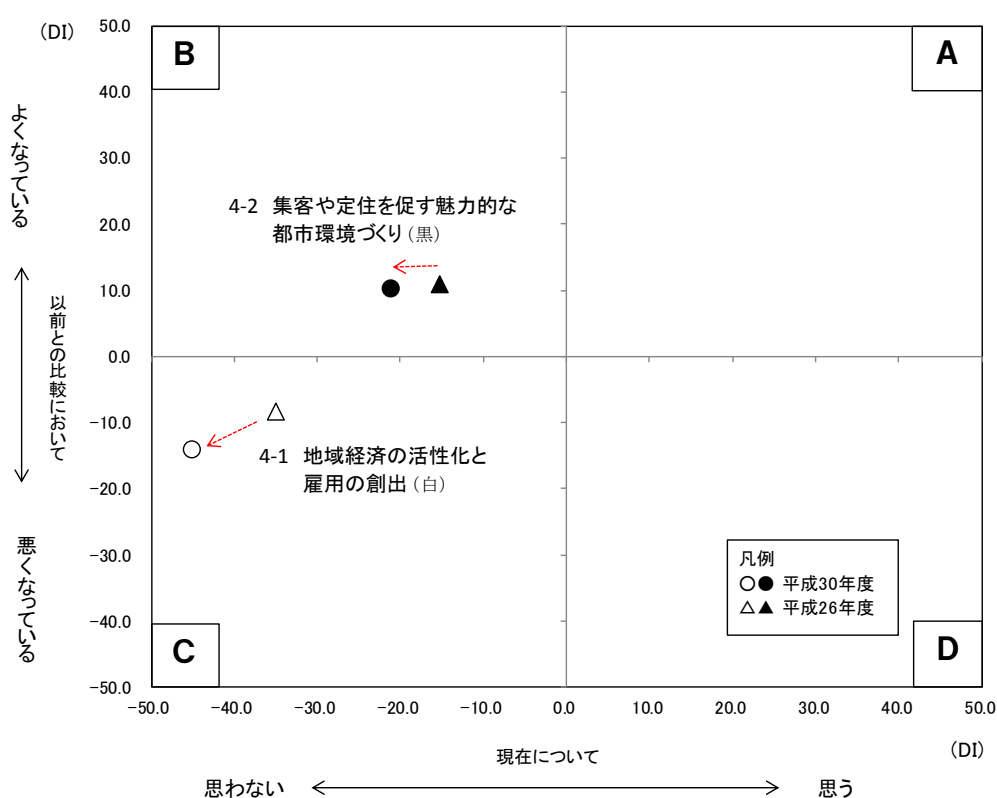
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
環境破壊、自然の減少、自然破壊	9	24.3
宅地造成、道路・施設建設など開発による自然破壊	(5)	
ごみ・たばこのポイ捨てなどマナーが悪い、まちが汚い	8	21.6
環境施策や取り組みが不十分	4	10.8
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	3	8.1
その他、意見等	13	35.1
	37	100

重点プログラム4 『にぎわいを生む』
～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

- 4－1 問15 横須賀市は、「地域経済の活性化と雇用の創出」が図られているまちだと思いますか。
- 4－2 問16 横須賀市は、「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」が進められているまちだと思いますか。

1 平成30年度調査と平成26年度調査との比較

図表iv-4 「重点プログラム4の取り組みの方向性の状況」(H30-26年度比較)



(1) 4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

今回調査の DI は「現在について」「以前との比較」とともにマイナスで、平成 26 年度調査と比べて数値がさらに下落した。

特に「現在について」は、近年マイナス 30～40 ポイント前後で推移し、実感が得られていない状況が続いている。

(ポイント)							
現在	調査年度	件数(人)	①思う + ②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない + ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	610	15.6	23.9	60.5	▲ 44.9	▲ 9.9
	29年度	472	22.2	22.5	55.3	▲ 33.1	
	28年度	484	20.5	25.8	53.7	▲ 33.2	
	27年度	600	24.0	19.5	56.5	▲ 32.5	
	26年度	581	21.2	22.5	56.2	▲ 35.0	
以前との 比較	調査年度	件数(人)	①よくなっている + ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている + ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	514	18.3	49.2	32.5	▲ 14.2	▲ 5.9
	29年度	410	23.7	36.3	40.0	▲ 16.3	
	28年度	436	26.8	39.9	33.3	▲ 6.5	
	27年度	524	27.4	38.2	34.3	▲ 6.9	
	26年度	519	26.4	38.9	34.7	▲ 8.3	

(回答理由分類については p. 53 参照)

(2) 4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

今回調査の DI は「現在について」がマイナスで、平成 26 年度調査と比べても数値が下落しており、実感が得られていない状況が続いている。

一方で、「以前との比較」については、DI はプラスで、一定の実感は得られているとみることができる。

(ポイント)							
現在	調査年度	件数(人)	①思う + ②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない + ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	685	28.3	22.5	49.2	▲ 20.9	▲ 5.7
	29年度	501	28.9	24.8	46.3	▲ 17.4	
	28年度	517	28.2	22.8	48.9	▲ 20.7	
	27年度	634	32.4	23.3	44.3	▲ 11.9	
	26年度	625	30.2	24.3	45.4	▲ 15.2	
以前との 比較	調査年度	件数(人)	①よくなっている + ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている + ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	573	31.2	47.6	21.1	10.1	▲ 0.8
	29年度	439	28.9	45.1	26.0	2.9	
	28年度	453	30.2	44.8	24.9	5.3	
	27年度	540	33.1	42.2	24.6	8.5	
	26年度	557	33.3	44.3	22.4	10.9	

(回答理由分類については p. 55 参照)

2 回答理由分類

(1) 4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントなど観光事業の充実、観光客の増加	28	35.0
イベントの開催	(8)	
軍港めぐり	(8)	
猿島(地域資源の活用)	(4)	
施策の充実	19	23.8
企業誘致	(10)	
スポーツの活用、大規模スポーツ大会・施設等の誘致	(3)	
地域経済の活性化、商業施設、大型商業施設の増加	10	12.5
雇用の増加	7	8.8
横須賀中央や平成町などの開発	2	2.5
その他、意見等	11	13.8
否定的な回答理由	3	3.8
	80	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
働く場や求人が少ない、低賃金、労働力人口の流出	65	22.6
企業が少ない、企業・工場の転出・撤退、産業の衰退	50	17.4
商店街に活気がない、空き店舗の増加	36	12.5
変化を感じない、実感がない	32	11.1
施策が不十分、特色や面白みがない	28	9.8
企業誘致、産業の創出	(15)	
人口減少・人口流出	24	8.4
中心市街地ににぎわいや活気を感じない	11	3.8
魅力的な商業施設がない、買い物客の市外流出	9	3.1
交通利便性が低い	8	2.8
他都市と比べて劣る	8	2.8
観光業が弱い	3	1.0
地域差がある	2	0.7
その他、意見等	11	3.8
	287	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと言くなっている」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントなど観光事業の充実、観光客の増加	18	31.6
イベントの開催	(5)	
軍港めぐり	(5)	
施策の充実	8	14.0
企業誘致	(4)	
地域経済の活性化、商業施設の増加	7	12.3
全体的によくなっている	6	10.5
雇用の増加	4	7.0
努力が見える	3	5.3
PRの向上、テレビなどメディアで取り上げられる	2	3.5
その他、意見等	7	12.3
否定的な回答理由	2	3.5
	57	100

「④どちらかというと言くなっている」「⑤悪くなっている」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
企業が少ない、企業・工場の撤退、産業の衰退	22	18.6
商店街に活気がない、空き店舗の増加、個店の減少	20	16.9
人口減少・人口流出	17	14.4
雇用の減少、求人が少ない、労働力人口の流出、低賃金	13	11.0
中心市街地ににぎわいや活気を感じない、開発が進まない	10	8.5
経済が活性化していない、悪化	6	5.1
大型商業施設の減少、買い物客の市外流出	6	5.1
施策が不十分	5	4.2
雇用対策、企業誘致	(4)	
変化を感じない、実感がない	5	4.2
他都市と比べて劣る	3	2.5
全体的に悪くなっている	2	1.7
その他、意見等	9	7.6
	118	100

(2) 4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントなど観光事業の充実、観光客の増加	34	21.9
イベントの開催	(12)	
軍港めぐり	(5)	
PRの向上、テレビなどメディアで取り上げられる	27	17.4
施策の充実	23	14.8
スポーツの活用、大規模スポーツ大会・施設等の誘致	(9)	
観光・レジャーができる施設・名所がある	22	14.2
市の努力が見える	19	12.3
谷戸・空き家対策	(3)	
住みやすい	12	7.7
マンション・住宅地の増加	8	5.2
その他、意見等	6	3.9
否定的な回答理由	4	2.6
	155	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少・流出	34	14.8
魅力を感じない	29	12.7
定住を促す魅力的な要素がない	(11)	
他都市と比較して魅力がない・劣る	(9)	
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	28	12.2
施策が不十分、新しさが無い	22	9.6
集客、観光などの施策が不十分	(12)	
魅力的な商業施設がない、買い物客等の市外流出	18	7.9
階段・坂が多い、道路整備が不十分、交通利便性が低い	13	5.7
公共交通が不便	(6)	
PR不足	13	5.7
雇用・企業の減少	11	4.8
商店街に活気がない、空き店舗の増加、個店の減少	11	4.8
魅力的な観光資源・施設が少ない	10	4.4
生活利便性が低い	9	3.9
空き家が多い	8	3.5
変化を感じない、実感がない	8	3.5
市街地の整備・再開発が進んでいない	3	1.3
その他、意見等	12	5.2
	229	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと言くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベントなど観光事業の充実、観光客の増加	35	30.2
イベントの開催	(11)	
PRの向上、テレビなどメディアで取り上げられる	17	14.7
市の努力が見える	13	11.2
市街地の整備・活性化が進んでいる	10	8.6
マンション・住宅地の増加	9	7.8
全体的によくなっている	7	6.0
施策の充実	6	5.2
スポーツの活用、大規模スポーツ大会・施設等の誘致	(4)	
観光・レジャーができる施設の増加	4	3.4
道路整備、交通利便性の向上	2	1.7
その他、意見等	11	9.5
否定的な回答理由	2	1.7
	116	100

「④どちらかというと言くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の減少・流出	23	30.7
空き家が多い	10	13.3
商店街に活気がない、空き店舗の増加、個店の減少	10	13.3
施策が不十分	5	6.7
魅力がない	5	6.7
道路整備が不十分、交通利便性が低い	4	5.3
中心市街地に活気がない	4	5.3
大型商業施設の減少、魅力的な商業施設がない	3	4.0
変化を感じない、実感がない	3	4.0
雇用・企業の減少	2	2.7
その他、意見等	6	8.0
	75	100

重点プログラム5 『地域力を育む』

～地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・

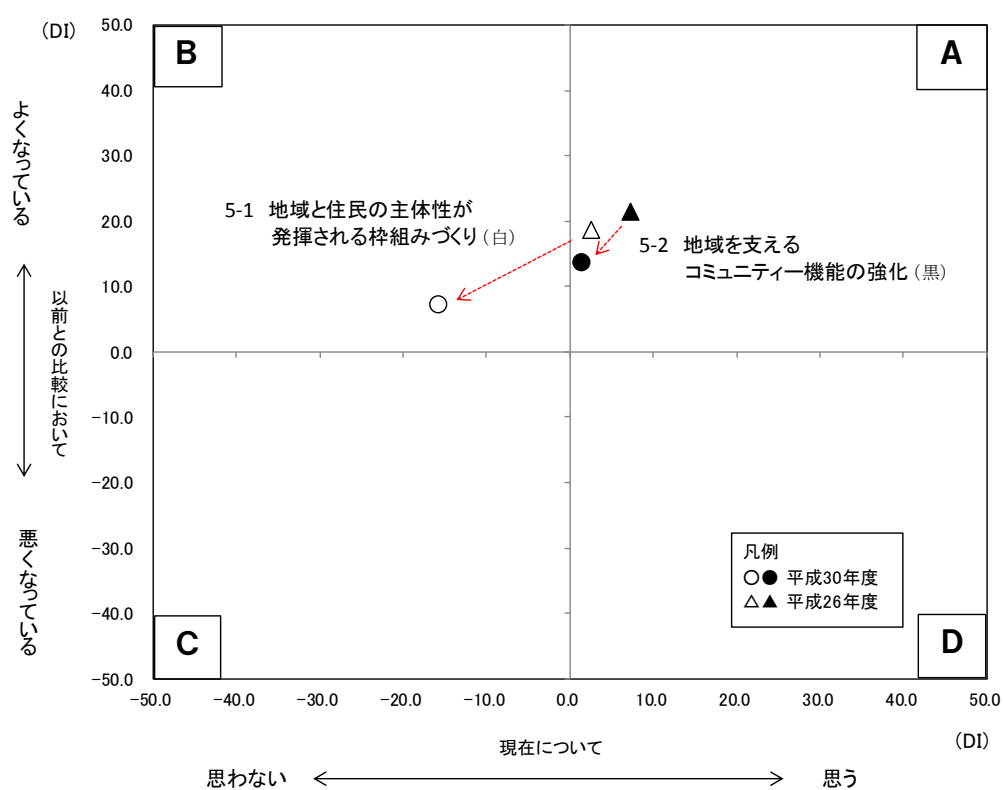
地域を支えるコミュニティ機能の強化～

5-1 問17 横須賀市は、「地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」が進められているまちだと思いますか。

5-2 問18 横須賀市は、「地域を支えるコミュニティ機能の強化」が図られているまちだと思いますか。

1 平成30年度調査と平成26年度調査との比較

図表iv-5 「重点プログラム5の取り組みの方向性の状況」(H30-26年度比較)



(1) 5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり

今回調査のDIは「以前との比較」についてはプラス値を維持したものの、「現在について」はマイナスとなった。

「現在について」「以前との比較」とともに平成26年度調査から数値が大幅に下落しており、今後の動向に留意が必要である。

(ポイント)							
	調査年度	件数(人)	①思う + ②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない + ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
現在	30年度	511	25.0	34.2	40.7	▲ 15.7	▲ 18.2
	29年度	393	31.8	35.9	32.3	▲ 0.5	
	28年度	411	33.6	31.9	34.5	▲ 0.9	
	27年度	501	34.7	28.9	36.4	▲ 1.7	
	26年度	499	35.3	31.9	32.8	2.5	
以前との 比較	調査年度	件数(人)	①よくなっている + ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている + ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	404	19.6	67.8	12.6	7.0	▲ 11.7
	29年度	326	31.0	58.0	11.0	20.0	
	28年度	351	28.2	58.1	13.7	14.5	
	27年度	410	36.4	52.7	11.0	25.4	
	26年度	432	34.0	50.7	15.3	18.7	

(回答理由分類については p. 59 参照)

(2) 5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化

今回調査のDIは「現在について」「以前との比較」とともにプラスとなったものの、ともに平成26年度と比べて数値が下落している。

ただし、「以前との比較」については10ポイントを超えるプラス値が続いており、一定の実感は得られている状況にある。

(ポイント)							
	調査年度	件数(人)	①思う + ②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない + ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
現在	30年度	594	36.4	28.8	34.8	1.6	▲ 5.6
	29年度	440	37.0	31.1	31.8	5.2	
	28年度	430	34.2	32.8	33.0	1.2	
	27年度	541	37.4	26.8	35.9	1.5	
	26年度	521	40.3	26.7	33.1	7.2	
以前との 比較	調査年度	件数(人)	①よくなっている + ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている + ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	473	25.4	62.8	11.8	13.6	▲ 7.8
	29年度	357	28.6	58.3	13.2	15.4	
	28年度	358	29.1	54.5	16.5	12.6	
	27年度	451	34.4	50.1	15.5	18.9	
	26年度	452	34.2	52.9	12.8	21.4	

(回答理由分類については p. 61 参照)

2 回答理由分類

(1) 5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	29	39.7
クリーン活動	(2)	
行政の対応がよい、努力が見える	9	12.3
地域のイベントがある	8	11.0
自主的に取り組んでいる、市民・地域が努力している	8	11.0
住民の連携がよい、地域の人間関係がよい	5	6.8
その他、意見等	11	15.1
否定的な回答理由	3	4.1
	73	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」 ※ () は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
特に感じない、実感がない	24	22.4
施策の具体的な内容が見えない、取り組みが見えない	19	17.8
高齢化と活動の衰退、若年層の参加がない、担い手不足	14	13.1
活動を知らない、伝わってこない	14	13.1
地域の人間関係が希薄、無関心	9	8.4
施策が不十分	8	7.5
活動しているのは一部の人のみ、町内会・自治会と住民の距離が遠い	6	5.6
地域住民の調和がない、排他的、新しい住民の立場が弱い	6	5.6
その他、意見等	7	6.5
	107	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと言くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	12	35.3
全体的によくなっている	8	23.5
施策の充実	4	11.8
住民の連携がよい、コミュニケーションの増加	3	8.8
その他、意見等	7	20.6
	34	100

「④どちらかというと言くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢化と活動の衰退、若年層の参加がない、担い手不足	14	42.4
地域の人間関係が希薄、他人任せ	5	15.2
全体的に悪くなっている	3	9.1
町内会加入者の減少、地域活動参加者の減少	2	6.1
その他、意見等	9	27.3
	33	100

（２）５－２ 地域を支えるコミュニティー機能の強化

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
町内会・自治会、地域活動が盛ん	44	35.5
地域に参加する人の増加、活動の増加、高齢者の活躍	14	11.3
施策の充実	13	10.5
住民の連携がよい、地域の人間関係がよい、ネットワークがある	13	10.5
自主的に取り組んでいる、地域住民が努力している	8	6.5
コミュニティセンター（行政センター）の利用者の増加、講座の開催	7	5.6
地域のイベントがある	6	4.8
情報発信の充実（回覧板等）	6	4.8
その他、意見等	12	9.7
否定的な回答理由	1	0.8
	124	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
施策の具体的な内容が見えない、取り組み・成果が見えない	22	21.6
地域の人間関係が希薄、関わりがない	16	15.7
町内会・地域活動の衰退、加入者・参加者の減少	11	10.8
一部の人のみが活動している	10	9.8
活動を知らない、伝わってこない、参加する方法が分からない	9	8.8
高齢化と活動の衰退、若年層がいない、世代間格差	8	7.8
施策が不十分	6	5.9
地域住民の調和がない、排他的、新しい住民の立場が弱い	5	4.9
その他、意見等	15	14.7
	102	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
全体的によくなっている	18	33.3
町内会・自治会、地域活動が盛ん	14	25.9
施策の充実	6	11.1
住民の連携がよい、地域の人間関係がよい、ネットワークがある	6	11.1
コミュニティセンター（行政センター）の利用者の増加、講座の開催	5	9.3
その他、意見等	4	7.4
否定的な回答理由	1	1.9
	54	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」 ※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢化と活動の衰退、若年層がいない、世代間格差	13	39.4
地域の人間関係が希薄、関わりがない	7	21.2
町内会・地域活動の衰退、加入者・参加者の減少	6	18.2
全体的に悪くなっている	4	12.1
その他、意見等	3	9.1
	33	100

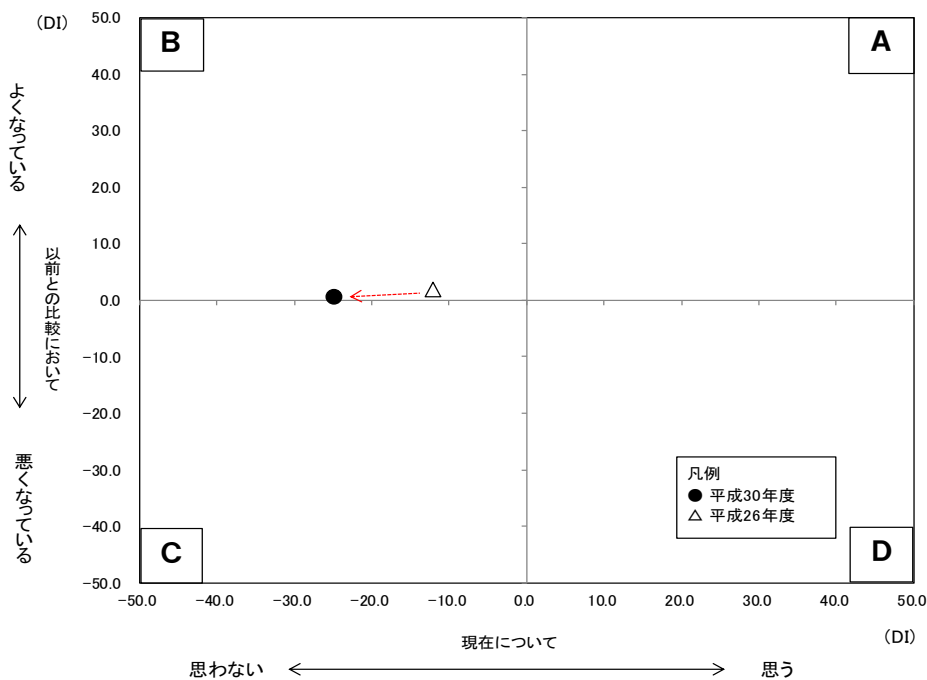
横須賀市の都市力（都市の魅力）について

重点プログラムの狙いである「人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、着実に成長できるための都市力(都市の魅力)を備えているまち」に対しての実感を尋ねた。

問 19 横須賀市は、人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、
着実に成長できるための「都市力（都市の魅力）」を備えているまち
だと思いますか。

1 平成 30 年度調査と平成 26 年度調査との比較

図表 iv-6 「都市力（都市の魅力）を備えているまち」の状況（H30-26 年度比較）



							(ポイント)
現在	調査年度	件数(人)	①思う + ②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない + ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	647	24.3	26.7	49.0	▲ 24.7	▲ 12.5
	29年度	488	29.5	22.5	47.9	▲ 18.4	
	28年度	514	26.9	25.9	47.2	▲ 20.3	
	27年度	631	31.2	23.8	45.0	▲ 13.8	
	26年度	616	31.0	25.8	43.2	▲ 12.2	
以前との 比較	調査年度	件数(人)	①よくなっている + ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている + ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	30-26年度比
	30年度	531	25.6	49.2	25.2	0.4	▲ 1.5
	29年度	409	24.0	50.4	25.7	▲ 1.7	
	28年度	426	28.4	43.0	28.6	▲ 0.2	
	27年度	536	29.0	47.2	23.8	5.2	
	26年度	530	27.8	46.4	25.9	1.9	

(1) 都市力（都市の魅力）を備えているまちに対する実感

今回調査のDIは「現在について」がマイナス、「以前との比較」がほぼプラスマイナス0で、特に「現在について」は、平成26年度調査からマイナスの傾向が続いており、実感が得られていない状況にある。

2 回答理由分類

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
多くの魅力を備えている、可能性がある	34	29.8
豊かな自然環境、温暖な気候	16	14.0
基地の存在	9	7.9
都市部に近い、交通利便性が高い	8	7.0
他にはない魅力を活用した集客、観光資源が豊富、知名度がある	8	7.0
生活利便性が高い、環境がよい、住みやすい	7	6.1
施策の充実	5	4.4
子育て世帯や子どもの増加	2	1.8
その他、意見等	22	19.3
否定的な回答理由	3	2.6
	114	100

「④あまり思わない」「⑤思わない」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出	42	21.4
都市力を備えていない、成長がない、持続可能性がない、衰退	26	13.3
施策が不十分、遅れている、施策に特色がない	24	12.2
出産・子育て施策や助成が不十分	(3)	
教育環境が不十分	(5)	
魅力がない、中途半端	20	10.2
若年層・子育て世代にとって魅力がない	(8)	
市外の人にとって住みたいと思えるほどの魅力がない	(4)	
雇用・企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出	12	6.1
都市部まで遠い	(1)	
商業施設の減少、魅力ある商業施設がない、買い物客の市外流出	10	5.1
成長する必要があると思わない	10	5.1
他都市と比べて劣る	10	5.1
中心市街地やまちに活気がない	7	3.6
交通利便性が低い、車がないと不便、道が狭い、坂が多い	6	3.1
行政の努力不足	5	2.6
PR、情報発信不足	3	1.5
その他、意見等	21	10.7
	196	100

【以前との比較】

「①良くなっている」「②どちらかというと良くなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
全体的によくなっている	16	22.5
PRの向上、知名度の上昇	10	14.1
施策の充実	9	12.7
集客・観光事業の充実、観光スポットの増加、観光客の増加	(4)	
生活利便性の向上、施設の充実	7	9.9
魅力が増した、イメージの向上	5	7.0
若年層、転入者の増加	2	2.8
その他、意見等	22	31.0
	71	100

「④どちらかというと悪くなっている」「⑤悪くなっている」

※（ ）は内数

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口減少・人口流出、少子高齢化、若年層の市外流出	32	40.0
商業施設の減少、魅力ある商業施設がない、買い物客の市外流出	10	12.5
雇用・企業の減少、産業の衰退、労働力人口の市外流出	7	8.8
全体的に悪くなっている	7	8.8
施策が不十分、特色がない	5	6.3
中心市街地やまちに活気がない	4	5.0
魅力がない	3	3.8
他都市と比べて劣る	2	2.5
その他、意見等	10	12.5
	80	100

優先して取り組むべき政策について

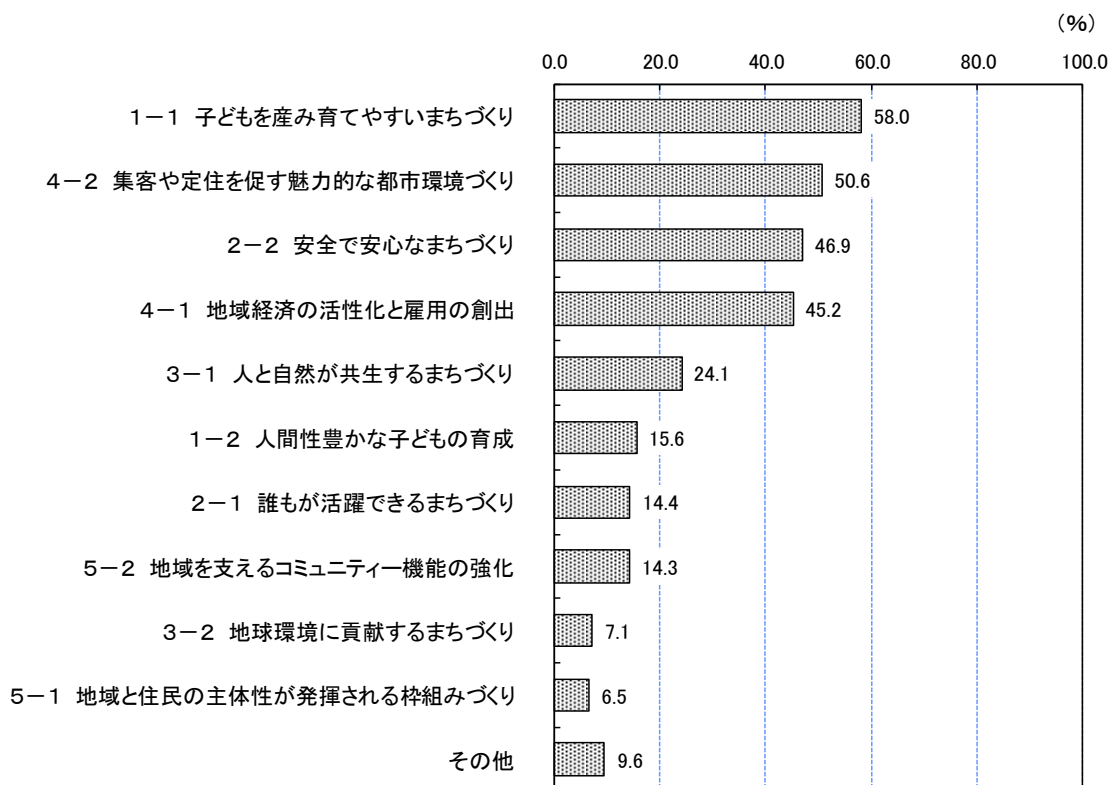
問 20 人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、横須賀が着実に成長できるために、今後、市はどのような政策に優先して取り組むべきだと思いますか。

1 優先して取り組むべき政策の傾向

(1) 平成 30 年度調査結果

- ・「1－1 子どもを産み育てやすいまちづくり」の回答割合が最も高く（58.0%）、次いで「4－2 集客や定住促進を促す魅力的な都市環境づくり」（50.6%）、「2－2 安全で安心なまちづくり」（46.9%）、「4－1 地域経済の活性化と雇用の創出」（45.2%）の順に多く選択された。
- ・選択順位別でも、1 番目の項目として「1－1 子どもを産み育てやすいまちづくり」が最も多く選択された（40.8%）。

図表 iv-7 「優先して取り組むべき政策」の状況（n=784）



※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

図表 iv-8 「優先して取り組むべき政策」の状況（選択順位別）

プログラムおよび取り組みの方向性(順位別)		全体		1番目		2番目		3番目	
		件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
プログラム 1	(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	455	58.0	320	40.8	82	10.7	53	7.1
	(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	122	15.6	39	5.0	53	6.9	30	4.0
プログラム 2	(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	113	14.4	32	4.1	47	6.1	34	4.6
	(2-2) 安全で安心なまちづくり	368	46.9	124	15.8	160	20.9	84	11.3
プログラム 3	(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	189	24.1	23	2.9	94	12.3	72	9.7
	(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	56	7.1	5	0.6	25	3.3	26	3.5
プログラム 4	(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	354	45.2	111	14.2	134	17.5	109	14.7
	(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	397	50.6	94	12.0	130	17.0	173	23.3
プログラム 5	(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	51	6.5	1	0.1	14	1.8	36	4.8
	(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の強化	112	14.3	11	1.4	17	2.2	84	11.3
その他		75	9.6	24	3.1	9	1.2	42	5.7
回答数(n)				784	100	765	100	743	100

※回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

(2) 平成30年度－28年度調査結果

- ・平成28年度調査以降、選択順位の傾向に大きな違いはみられないが、前回調査で2位に上昇した「4-2 集客や定住促進を促す魅力的な都市環境づくり」が、今回調査でも引き続き2位となった。

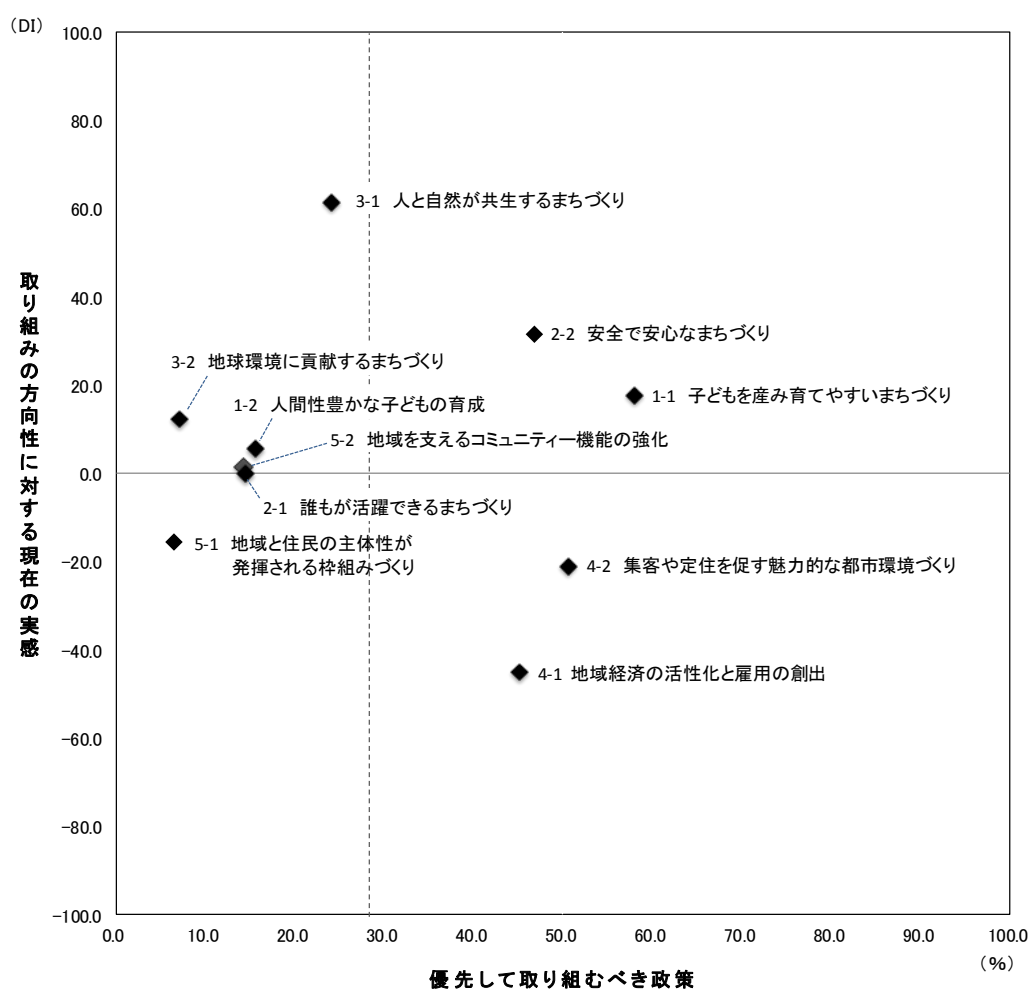
図表 iv-9 「優先して取り組むべき政策」の回答割合（H30-28年度比較）

取り組みの方向性	30年度(n=784)		29年度(n=561)		28年度(n=574)		30-29年度比	29-28年度比
	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)		
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	1	58.0	1	60.4	1	57.8	▲ 2.4	2.6
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	2	50.6	2	52.8	4	44.9	▲ 2.1	7.9
(2-2) 安全で安心なまちづくり	3	46.9	3	52.2	2	55.2	▲ 5.3	▲ 3.0
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	4	45.2	4	46.2	3	52.6	▲ 1.0	▲ 6.4
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	5	24.1	5	21.6	5	24.0	2.5	▲ 2.4
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	6	15.6	6	15.5	6	17.9	0.1	▲ 2.4
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	7	14.4	8	11.9	7	14.6	2.5	▲ 2.7
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の強化	8	14.3	7	14.6	8	12.2	▲ 0.3	2.4
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	9	7.1	9	5.9	10	4.2	1.3	1.7
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	10	6.5	10	5.2	9	6.1	1.3	▲ 0.9
その他	—	9.6	—	7.1	—	7.5	2.5	▲ 0.4

2 優先して取り組むべき政策と取り組みの方向性に対する現在の実感

- ・「1－1 子どもを産み育てやすいまちづくり」および「2－2 安全で安心なまちづくり」は、「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より高く、「現在の実感」のDIがプラス（実感が得られている）の状況。
- ・「4－1 地域経済の活性化と雇用の創出」および「4－2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」は、同様に「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より高いが、「現在の実感」のDIがマイナス（実感が得られていない）の状況。

図表iv-10 「優先して取り組むべき政策×現在の実感」（H30 年度）



※グラフ内の破線は、「優先して取り組むべき政策の回答割合 (%)」の平均値を示したもの
(X=28.3)

平均値の推移：29年度 (X=28.6) 28年度 (X=28.9)

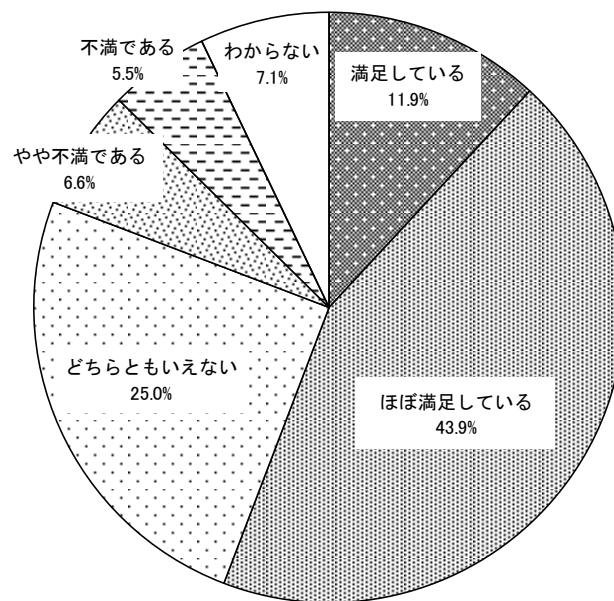
v 市の具体的な取り組みに対する実感・意識について

v-1 市役所サービスへの満足度について

問 21 日々の暮らしに関わる市役所のサービスに対する、あなたの「満足度」について回答してください。

- ・ 6 割近くの回答者が、市役所サービスに対する満足度を感じており（「満足している」（11.9%）「ほぼ満足している」（43.9%）の合算）、その割合は増加傾向にある。

図表 v-1 「市役所サービスへの満足度」（n=816）



図表 v-2 「市役所サービスへの満足度」（前回調査比較）（n=816）

調査時期	件数 (人)	回答項目・割合 (%)						①+②	④+⑤
		①満足している	②ほぼ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤不満である	⑥わからない		
平成30年 5 月	816	11.9	43.9	25.0	6.6	5.5	7.1	55.8	12.1
平成29年 1 月	839	9.2	39.8	29.2	8.8	6.0	7.0	49.0	14.8
平成25年 1 月	929	9.5	36.8	33.8	8.0	4.5	7.4	46.3	12.5

※過去 2 回は「総合計画市民アンケート」で実施

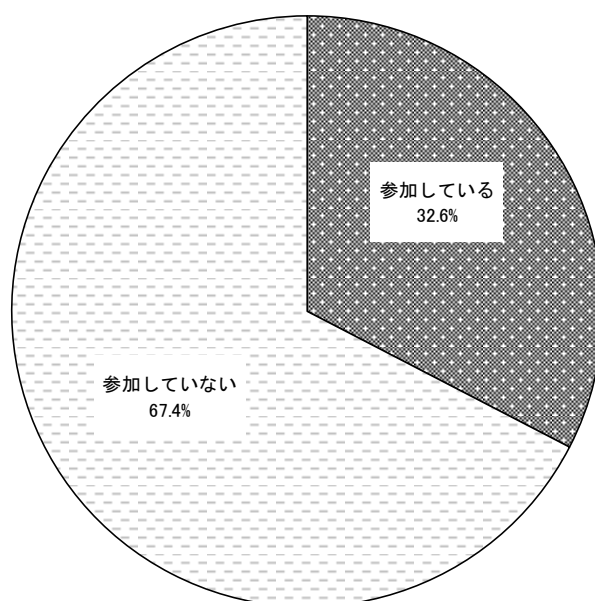
v-2 地域活動への参加状況について

問 22 あなたは、地域のまちづくり活動※やボランティア活動、NPO活動に参加、参画していますか。

※地域のまちづくり活動の例：町内会の役員、地域のクリーン活動や防災・防犯活動など

- ・地域活動に「参加、参画している」と回答した人は約3割で、前回調査と比べ約15ポイント増加した。

図表 v-3 「地域活動への参加状況」(n=816)



図表 v-4 「地域活動への参加状況」(前回調査比較)(n=816)

調査時期	件数 (人)	回答項目・割合 (%)	
		参加、参画している	参加、参画していない
平成30年5月	816	32.6	67.4
平成29年1月	839	17.6	82.4
平成25年1月	931	26.5	13.5

※過去2回は「総合計画市民アンケート」で実施

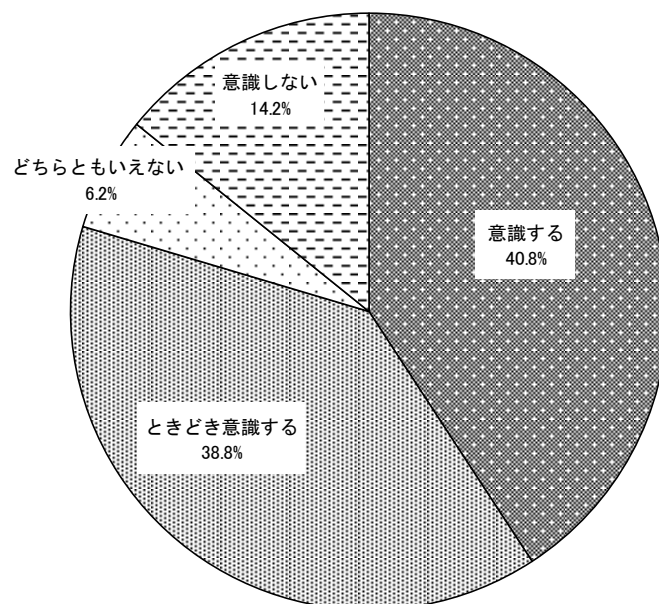
v-3 地産地消について

1 農水産物の産地に対する意識について

問 23 あなたは、食材や加工品を購入したり、飲食店で注文したりするときなどに、農水産物（食材）の産地を意識しますか。

- ・約 8 割の回答者が、食材の購入などに際し産地を意識すると回答しており（「意識する」（40.8%）、「ときどき意識する」（38.8%）の合算）、過去の調査と同様、意識の高さがかがえる。
- ・年代別では、20 歳代以下を除いて、全ての世代で 8 割を超えている。

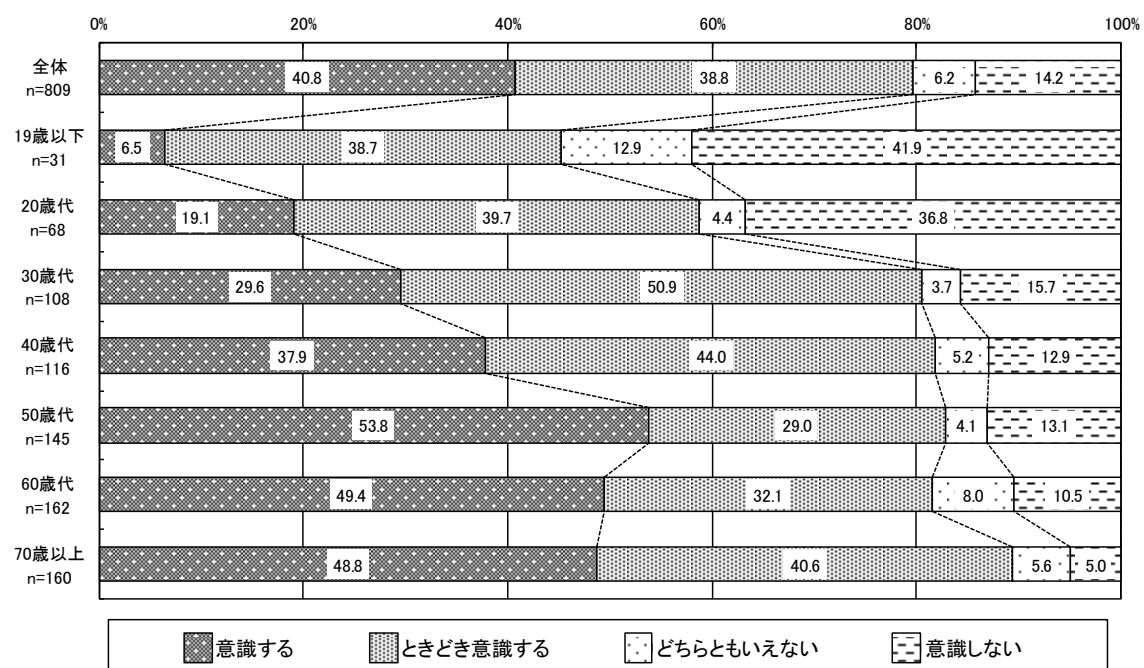
図表 v-5 「農水産物の産地に対する意識」（n=809）



図表 v-6 「農水産物の産地に対する意識」（H30-28 年度）

調査年度	件数(人)	(%)			
		①意識する	②ときどき意識する	③どちらともいえない	④意識しない
30年度	809	40.8	38.8	6.2	14.2
29年度	563	42.1	34.5	6.9	16.5
28年度	569	45.7	33.2	9.1	12.0

図表 v-7 「農水産物の産地に対する意識」(年代別)(n=809)

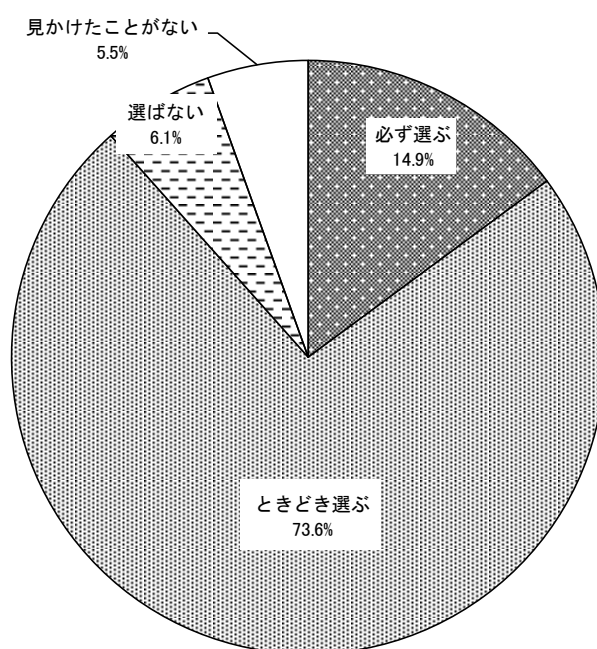


2 横須賀市産の農水産物の選択について

問 24 【問 23 で「①意識する」または「②ときどき意識する」を選んだ方に伺います。】
あなたは、食材や加工品を購入したり、飲食店で注文したりするときなどに、横須賀市内産の農水産物（食材）を選びますか。

- ・約 9 割の回答者が、食材の購入等に際し横須賀市内産の農水産物を選ぶと回答しており（「必ず選ぶ」（14.9%）、「ときどき選ぶ」（73.6%）の合算）、過去の調査と同様、市内産の農水産物に対する意識の高さがうかがえる。

図表 v-8 「横須賀市内産の農水産物の選択」（n=639）



図表 v-9 「横須賀市内産の農水産物の選択」（H29-27 年度）

調査年度	件数(人)	(%)			
		①必ず選ぶ	②ときどき選ぶ	③選ばない	④見かけたことがない
30年度	639	14.9	73.6	6.1	5.5
29年度	431	12.1	78.9	4.9	4.2
28年度	449	13.1	74.6	5.8	6.5

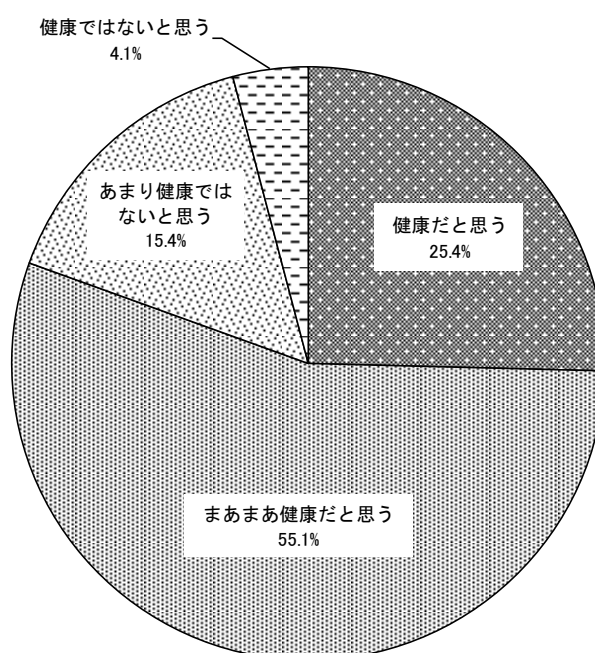
v-4 健康づくりについて

1 健康意識について

問 25 あなたは、普段、自分は健康だと思いますか。

- ・約8割の回答者が、健康だと感じており（「健康だと思う」（25.4%）、「まあまあ健康だと思う」（55.1%）の合算）、過去の調査と同様、多くの人が健康だと感じている状況がうかがえる。

図表 v-10 「健康意識」(n=806)



図表 v-11 「健康意識」(H30、28、26 年度)

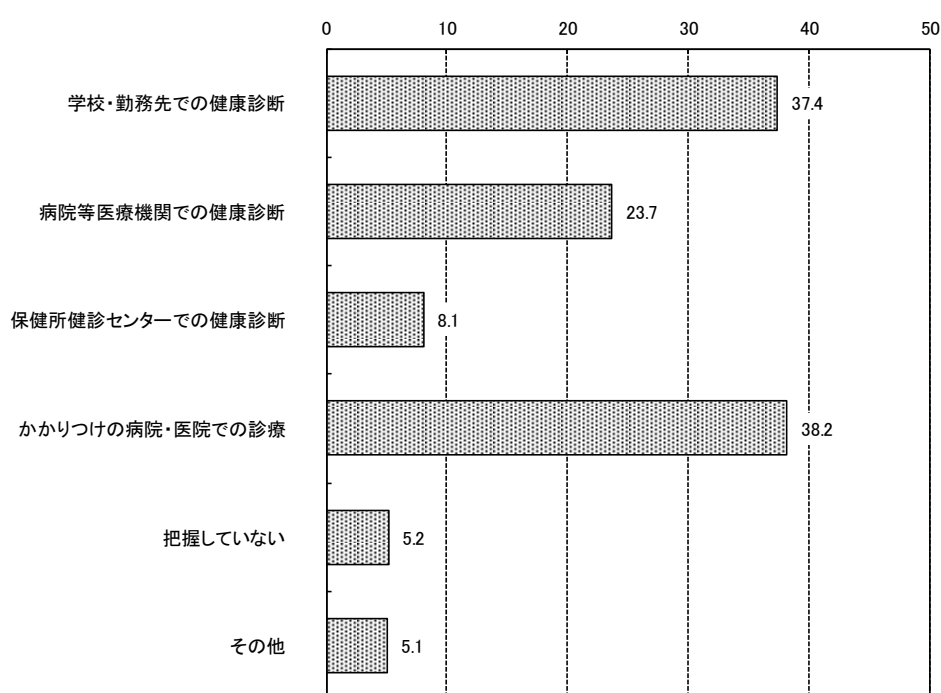
調査年度	件数(人)	(%)					
		①健康だと思う	②まあまあ健康だと思う	③あまり健康ではないと思う	④健康ではないと思う	①+②	③+④
30年度	806	25.4	55.1	15.4	4.1	80.5	19.5
28年度	569	18.8	62.1	14.4	4.7	80.9	19.1
26年度	718	21.9	57.6	16.3	4.2	79.5	20.5

2 健康状態の把握手段について

問 26 あなたは、ご自身の健康状態をどのような手段で把握していますか。

- ・「かかりつけの病院・医院での診療」(38.2%)、「学校・勤務先での健康診断」(37.4%)、「病院等医療機関での健康診断」(23.7%)の順に多く選択された。
- ・7割近くの回答者が、健康状態を把握する手段として、健康診断を利用していると回答した(「学校・勤務先での健康診断」(37.4%)、「病院等医療機関での健康診断」(23.7%)、「保健所健診センターでの健康診断」(8.1%)の合算)。

図表 v-12 「健康状態の把握手段」(n=803)



※回答は複数選択可のため、回答割合の合計は100%にならない

図表 v-13 「健康状態の把握手段」(H30-28 年度)

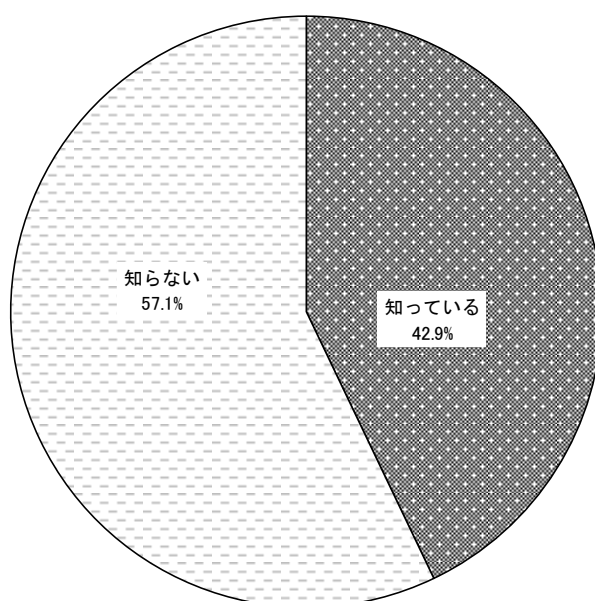
調査年度	件数(人)	(%)					
		①学校・勤務先での健康診断	②病院等医療機関での健康診断	③保健所健診センターでの健康診断	④かかりつけの病院・医院での診療	⑤把握していない	⑥ その他
30年度	803	37.4	23.7	8.1	38.2	5.2	5.1
29年度	560	37.9	21.8	8.2	34.8	8.0	6.4
28年度	568	34.5	21.5	5.8	43.0	8.1	4.4

3 ラジオ体操の実施の認知度について

問 27 市内の公園等で、町内会や有志の人たちが集まり、ラジオ体操をしていることを知っていますか（学校の夏休み期間中のみ実施されているものを除く）。

- ・市内の公園等で町内会や有志の人たちが集まり、ラジオ体操を実施していることを「知っている」と回答した人は約4割で、過去の調査結果と大きな違いはみられない。

図表 v-14 「ラジオ体操の実施の認知度」(n=808)



図表 v-15 「ラジオ体操の実施の認知度」(H30-28 年度)

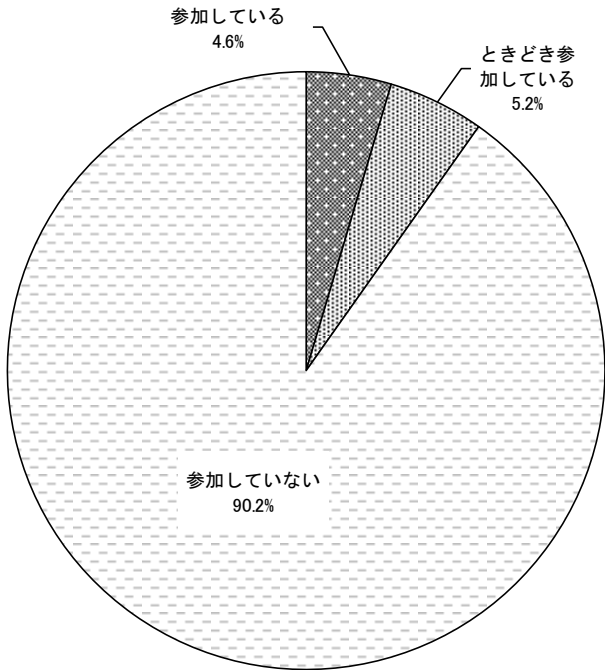
調査年度	件数(人)	(%)	
		①知っている	②知らない
30年度	808	42.9	57.1
29年度	561	46.2	53.8
28年度	570	43.5	56.5

4 ラジオ体操への参加について

問 28 【問 27 で「①知っている」を選んだ方に伺います。
あなたは、そのラジオ体操に参加していますか。

・ラジオ体操への参加経験がある（「参加している」（4.6%）、「ときどき参加している」（5.2%）の合算）とした回答者は全体の1割弱（9.8%）で、過去の調査結果と大きな違いはみられない。

図表 v-16 「ラジオ体操への参加状況」（n=347）



図表 v-17 「ラジオ体操への参加状況」（H30-28 年度）

調査年度	件数(人)	(%)			
		①参加している	②ときどき参加している	③参加していない	①+②
30年度	347	4.6	5.2	90.2	9.8
29年度	259	2.3	6.2	91.5	8.5
28年度	248	2.0	4.8	93.2	6.8

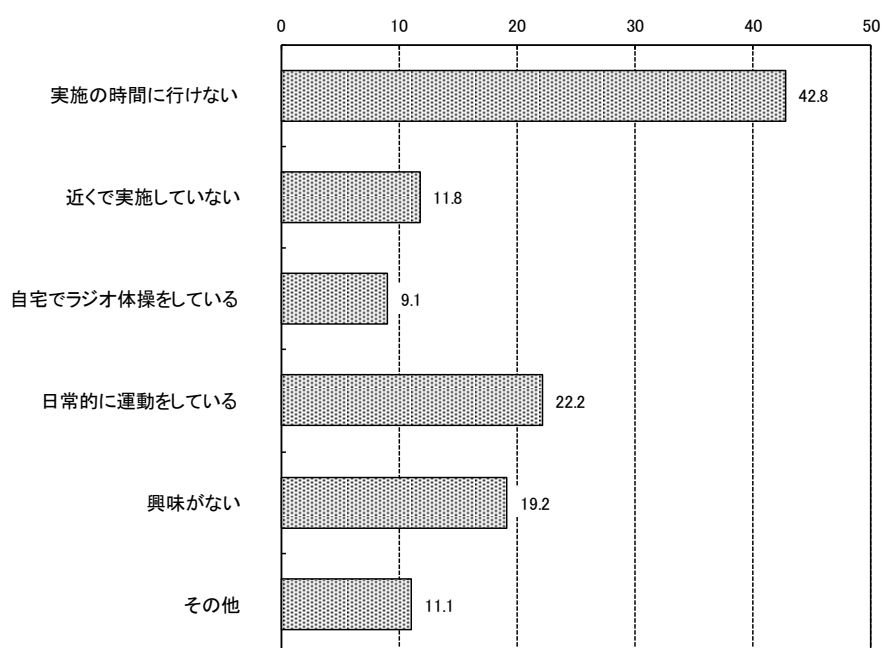
5 ラジオ体操に参加していない理由について

問 29 【問 28 で「③参加していない」を選んだ方に伺います。】

参加していない／できないのはなぜですか。

- ・参加していない理由として、「実施の時間に行けない」(42.8%)、「日常的に運動している」(22.2%)、「興味がない」(19.2%)の順に多く選択された。
- ・「日常的に運動をしている」(22.2%)と「自宅でラジオ体操をしている」(9.1%)を合わせ、何らかの運動習慣があると回答した人は全体の約3割で、過去の調査結果と概ね同じ傾向にある。

図表 v-18 「ラジオ体操に参加していない理由」(n=297)



※回答は複数選択可のため、回答割合の合計は100%にならない

図表 v-19 「ラジオ体操に参加していない理由」(H30-28 年度)

調査年度	件数(人)	(%)					
		①実施の時間に行けない	②近くで実施していない	③自宅でラジオ体操をしている	④日常的に運動をしている	⑤興味がない	⑥その他
30年度	297	42.8	11.8	9.1	22.2	19.2	11.1
29年度	229	39.3	12.2	10.5	21.8	19.2	16.2
28年度	227	39.2	11.0	11.0	22.0	20.3	10.6

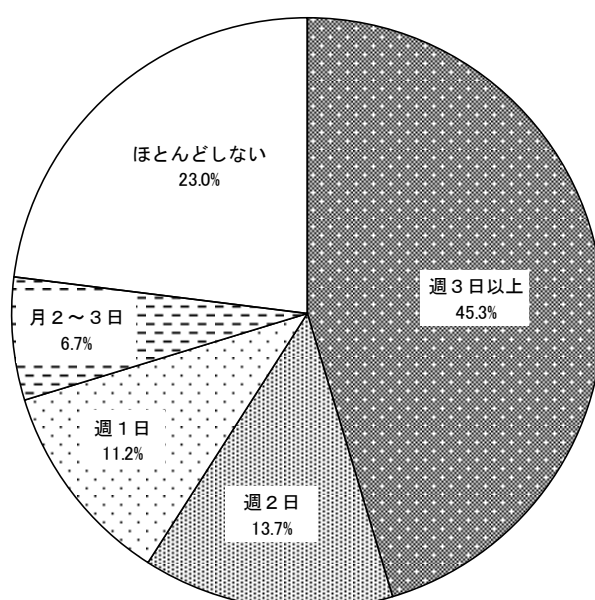
6 習慣的な運動の実施状況について

問 30 あなたは、30 分以上※の運動（ウォーキングや自転車での走行等を含む）をどれくらいしていますか。

※30 分以上：1 日の合計で 30 分以上（例：10 分を 3 回なども含む）

- ・ 1 日 30 分以上の運動を「週 3 日以上」実施している回答者が 45.3%で最も多く、次いで「ほとんどしない」(23.0%)が多い。
- ・ 週に 1 日以上運動している人は、約 7 割（「週 3 日以上」(45.3%)、「週 2 日」(13.7%)、「週 1 日」(11.2%) の合算）で、過去の調査結果と概ね同じ傾向にある。

図表 v-20 「習慣的な運動の実施状況」(n=794)



図表 v-21 「習慣的な運動の実施状況」(H30-28 年度)

調査年度	件数(人)						(%)
		①週3日以上	②週2日	③週1日	④月2～3日	⑤ほとんどしない	①+②+③
30年度	794	45.3	13.7	11.2	6.7	23.0	70.3
29年度	547	46.1	13.5	9.5	5.5	25.4	69.1
28年度	550	46.5	14.0	8.6	6.4	24.5	69.1

基本的な属性（F 1～F 6）

（１）性別（F 1）

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		30年度	29年度	28年度	30-29年度比	29-28年度比
全体	816	100	100	100		
男性	311	38.1	40.6	37.0	▲ 2.5	3.6
女性	485	59.4	58.0	59.9	1.4	▲ 1.9
無回答	20	2.5	1.4	3.1	1.1	▲ 1.7

（２）年齢（F 2）

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		30年度	29年度	28年度	30-29年度比	29-28年度比
全体	816	100	100	100		
15～19歳	31	3.8	3.7	4.6	0.1	▲ 0.9
20～29歳	68	8.3	7.7	7.8	0.6	▲ 0.1
30～39歳	108	13.2	13.3	11.9	▲ 0.1	1.4
40～49歳	116	14.2	15.8	13.1	▲ 1.6	2.7
50～59歳	146	17.9	16.8	15.7	1.1	1.1
60～69歳	164	20.1	22.2	22.7	▲ 2.1	▲ 0.5
70歳以上	163	20.0	19.1	21.5	0.9	▲ 2.4
無回答	20	2.5	1.4	2.7	1.1	▲ 1.3

（３）居住地域（F 3）

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		30年度	29年度	28年度	30-29年度比	29-28年度比
全体	816	100	100	100		
本庁地域	117	14.3	14.0	14.7	0.3	▲ 0.7
追浜地域	62	7.6	6.8	7.3	0.8	▲ 0.5
田浦地域	47	5.8	5.1	4.6	0.7	0.5
逸見地域	21	2.6	2.6	2.4	0.0	0.2
衣笠地域	116	14.2	13.0	14.3	1.2	▲ 1.3
大津地域	82	10.0	13.1	9.4	▲ 3.1	3.7
浦賀地域	100	12.3	12.8	13.3	▲ 0.5	▲ 0.5
久里浜地域	110	13.5	14.4	15.7	▲ 0.9	▲ 1.3
北下浦地域	70	8.6	7.5	6.1	1.1	1.4
西地域	70	8.6	8.9	9.0	▲ 0.3	▲ 0.1
無回答	21	2.6	1.8	3.2	0.8	▲ 1.4

(4) 職業 (F4)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		30年度	29年度	28年度	30-29年度比	29-28年度比
全体	816	100	100	100		
農林漁業	2	0.2	0.4	0.0	▲ 0.2	0.4
自営(商店・工務店・工場等)	16	2.0	0.9	1.7	1.1	▲ 0.8
自営(サービス業)	21	2.6	2.6	2.4	0.0	0.2
会社員・公務員 (事務職・専門職・管理職)	122	15.0	15.8	17.7	▲ 0.8	▲ 1.9
会社員・公務員(販売／サービス)	74	9.0	9.2	4.7	▲ 0.2	4.5
会社員・公務員 (保安・運輸／通信・建設／労務)	39	4.8	4.9	3.6	▲ 0.1	1.3
自由業	14	1.7	0.2	0.2	1.5	0.0
家事専業	139	17.0	15.9	18.9	1.1	▲ 3.0
アルバイト・パートタイマー・派遣社員	134	16.4	17.0	14.5	▲ 0.6	2.5
学生	45	5.5	4.2	5.3	1.3	▲ 1.1
無職	164	20.1	23.8	23.9	▲ 3.7	▲ 0.1
その他	24	2.8	3.6	4.7	▲ 0.8	▲ 1.1
無回答	22	2.7	1.4	2.4	1.3	▲ 1.0

(5) 世帯の状況 (F5)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		30年度	29年度	28年度	30-29年度比	29-28年度比
全体	840	100	100	100		
単身世帯(一人暮らし)	98	11.7	11.7	16.1	0.0	▲ 4.4
夫婦のみ	245	29.2	29.1	31.3	0.1	▲ 2.2
小学生未満の子どもがいる	59	7.0	7.0	5.4	0.0	1.6
小学生～中学生の子どもがいる	72	8.6	8.6	9.2	0.0	▲ 0.6
65歳以上の高齢者がいる	167	19.9	19.9	16.1	0.0	3.8
該当なし	175	20.8	20.8	18.9	0.0	1.9
無回答	24	3.0	3.1	3.0	▲ 0.1	0.1

※複数回答

(6) 居住年数 (F6)

項目	件数(人)	構成比(%)			増減	
		30年度	29年度	28年度	30-29年度比	29-28年度比
全 体	816	100	100	100		
1年未満	8	1.0	1.1	1.0	▲ 0.1	0.1
1～3年	39	4.8	5.8	5.0	▲ 1.0	0.8
4～9年	56	6.9	4.7	6.5	2.2	▲ 1.8
10～14年	40	4.9	6.3	5.8	▲ 1.4	0.5
15～19年	65	8.0	8.1	7.8	▲ 0.1	0.3
20～24年	60	7.4	8.1	7.8	▲ 0.7	0.3
25年以上	527	64.5	64.2	63.4	0.3	0.8
無回答	21	2.5	1.7	2.7	0.8	▲ 1.0

横須賀市民アンケート

質問・回答用紙

-
- ◇ こちらの用紙には、アンケートの質問と回答欄があります。
 - ◇ 回答欄にご記入の上、3つ折りにして同封の返信用封筒（切手不要）に封入し、
5月28日（月）までにご投函ください。
 - ◇ 問9～問20に関しては、ご回答いただく際の参考として、参考資料「基本計画重点プログラムについて」を同封していますので、ご参照ください。
-

総合計画（横須賀市の最上位計画）の体系



I 横須賀市の最近の動きについて伺います

横須賀市では今、地域の魅力や特性を最大限に生かした取り組みを進めています。そこで、こうした取り組みに対する皆さまの実感や認知度についてお伺いします。

問1 今の横須賀で、次に掲げる取り組みが進んでいる実感はありますか。
選択肢から選んで 1～6 のそれぞれの回答欄に記入してください。

選択肢

- ① ある ② どちらかといえばある ③ どちらともいえない ④ あまりない
⑤ ない ⑥ わからない

番号	地域の魅力や特性を活用した取り組み	回答欄
1	海を活用した取り組み	
2	音楽を活用した取り組み	
3	スポーツを活用した取り組み	
4	アート・芸術を活用した取り組み	
5	歴史を活用した取り組み	
6	地域のつながりを深めるための取り組み	

【横須賀再興プラン】

平成 30 年 3 月に横須賀の再興に向けた 4 年間の実施計画、
「横須賀再興プラン～実施計画 2018～2021～」を策定しました。
計画内容については、本市ホームページでご覧いただくことができます。

<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/0830/upi/jisshikeikaku/index.html>



I 海洋都市

「海」という大きな可能性に溢れた本市の地域資源を最大限に活用したまちづくり

II 音楽・スポーツ・エンターテインメント都市

音楽・スポーツ・エンターテインメントの持つ力により都市活力を生み出し、市民がわくわくするまちづくり

III 個性ある地域コミュニティのある都市

谷戸や高台など横須賀独自の地理的特徴や、人と人とのつながりを生かし、子どもから高齢者まで多世代が交流できるあたたかく優しいまちづくり

問2 あなたは、次に掲げる具体的な取り組みについて知っていますか。
 選択肢から選んで、1～5のそれぞれの回答欄に記入してください。

選択肢

① 知っている ② 見た（聞いた）ことがある ③ 知らない

番号	具体的な取り組み	回答欄
1	津久井浜海岸でのANA ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会の開催	
2	横浜 DeNA ベイスターズのファーム施設（総合練習場、選手寮）の追浜公園への全面移転	
3	本市を含む旧軍港4市（横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市）の日本遺産認定 ※1	
4	米海軍関係者や市内の外国人家庭との交流、米海軍基地内大学への就学支援、英語に親しむイベントの開催など、「英語が学べるまち」を目指した取り組み	
5	2020年に開設から300周年を迎える浦賀奉行所※2を中心とした浦賀地域での取り組み	

※1 日本遺産

地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定する制度です。

※2 浦賀奉行所

江戸時代から幕末にかけて浦賀に設置された江戸幕府の遠国奉行の一つで、1853年のペリー来航時には、浦賀奉行所の役人が日本側の主役として活躍しました。

Ⅱ 横須賀の魅力について伺います

問3 あなたにとって横須賀の魅力的なところは、どのようなところだと思いますか。
次の選択肢から順に3つまで選んで回答欄に記入してください。

選択肢

- ① 教育や文化の水準が高い
- ② 子育てに対する支援が充実している
- ③ 高齢者、障害者などへの福祉が充実している
- ④ 道路、公園などの都市基盤が整備され、生活するのに便利である
- ⑤ 身近でスポーツ・レクリエーションを楽しむ機会に恵まれている
- ⑥ 犯罪が少なく、防災面も充実していて安心して暮らせる
- ⑦ 大都市に近く、通勤・通学に便利である
- ⑧ 仕事や収入の機会に恵まれている
- ⑨ 海や緑などの自然環境に恵まれている
- ⑩ 魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる
- ⑪ 観光資源や歴史的資産に恵まれている
- ⑫ 国際色が豊かである
- ⑬ 市民のマナーが良く、快適な生活ができる
- ⑭ 地域での人間関係がよい
- ⑮ その他（具体的にお書きください）

回答欄

1 番 目	2 番 目	3 番 目	「⑮その他」を選んだ方は、その内容をお書きください

Ⅲ 横須賀への愛着や住み良さについて伺います

- 問4** あなたは横須賀市に自分のまちとしての愛着を感じていますか。
選択肢からあてはまるものを1つだけ選んで回答欄に記入してください。

選択肢

- ① 感じる ② やや感じる ③ どちらともいえない
④ あまり感じない ⑤ 感じない ⑥ よくわからない

回答欄

- 問5** あなたにとって横須賀市はどの程度住み良いですか。
選択肢からあてはまるものを1つだけ選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

選択肢

- ① 住み良い ② まあまあ住み良い ③ あまり住み良くない ④ 住みにくい
⑤ わからない

回答欄

理由

- 問6** あなたは現在の横須賀市に住み続けたいと思いますか。
選択肢からあてはまるものを1つだけ選んで回答欄に記入してください。

選択肢

- ① 今住んでいるところに住み続けたい ② 横須賀市内のどこかに住み続けたい
③ 市外に転居したい

回答欄

※選択肢①②を選んだ方は、問7へ進んでください。
選択肢③を選んだ方は、6ページの問8へ進んでください。

問7 【問6で①または②を選んだ方に伺います。】

市内に住み続けたいと思う理由は何ですか。

次の選択肢から順に3つまで選んで回答欄に記入してください。

また、その具体的な理由をそれぞれ記入してください。

選択肢

- ① 子育て環境が良い
- ② 教育環境が良い
- ③ 福祉サービスが充実している
- ④ 治安が良い
- ⑤ 災害への心配がない
- ⑥ 道路、公園などの都市基盤が整備されている
- ⑦ 自然環境が豊か
- ⑧ 市内の雇用状況が良い
- ⑨ 買い物しやすい
- ⑩ 通勤・通学に便利
- ⑪ 望ましい住宅が取得できる
- ⑫ 住民の雰囲気が良い
- ⑬ 親・親族が近くに住んでいる
- ⑭ その他

回答欄【問6で①または②を選んだ方のみ】

1番目	具体的な理由をお書き下さい
2番目	具体的な理由をお書き下さい
3番目	具体的な理由をお書き下さい

問8 【問6で③を選んだ方に伺います。】

市外に転居したいと思う理由は何ですか。

次の選択肢から順に3つまで選んで回答欄に記入してください。

また、その具体的な理由をそれぞれ記入してください。

選択肢

- ① 子育て環境が良くない
- ② 教育環境が良くない
- ③ 福祉サービスが充実していない
- ④ 治安が良くない
- ⑤ 災害が心配
- ⑥ 道路、公園などの都市基盤が整備されていない
- ⑦ 自然環境が豊かでない
- ⑧ 市内の雇用が少ない
- ⑨ 買い物に不便
- ⑩ 通勤・通学に不便
- ⑪ 望ましい住宅が取得できない
- ⑫ 住民の雰囲気良くない
- ⑬ 親・親族の近くに住みたい
- ⑭ その他

回答欄【問6で③を選んだ方のみ】

1番目	具体的な理由をお書き下さい
2番目	具体的な理由をお書き下さい
3番目	具体的な理由をお書き下さい

Ⅳ 『重点プログラム（※）』の取り組みの方向性についての実感をお伺いします

※『重点プログラム』とは、「横須賀市基本計画」において、特に重点的・優先的に実行することに位置付けた５つの取り組みの事です。
詳しくは、本冊子の表紙裏ページおよび同封した「参考資料」をご覧ください。

５つの『重点プログラム』に関する次の設問（問９～問１８）について、現在の実感と、以前（４～５年前）と比べての実感を、それぞれ選択肢から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

重点プログラム１ 『新しい芽を育む』 ～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～

問９ 横須賀市は、「子どもを産み育てやすいまち」だと思いますか。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前（４～５年前）と比べて》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問１０ 横須賀市は、「人間性豊かな子どもの育成」が進められているまちだと思いますか。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前（４～５年前）と比べて》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム2 『命を守る』

～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～

問 11 横須賀市は、年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、いきいきと暮らせる「誰もが活躍できるまち」だと思いますか。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前（4～5年前）と比べて》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問 12 横須賀市は、「安全で安心なまち」だと思いますか。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前（4～5年前）と比べて》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム3 『環境を守る』

～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり

問 13 横須賀市は、「人と自然が共生するまち」だと思いますか。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前（４～５年前）と比べて》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問 14 横須賀市は、「地球環境に貢献するまちづくり」が進められているまちだと思いますか。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前（４～５年前）と比べて》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム4 『にぎわいを生む』

～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～

問 15 横須賀市は、「地域経済の活性化と雇用の創出」が図られているまちだと思いますか。

《現在》

回答欄

☐

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前（4～5年前）と比べて》

回答欄

☐

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問 16 横須賀市は、「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」が進められているまちだと思いますか。

《現在》

回答欄

☐

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前（4～5年前）と比べて》

回答欄

☐

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム5 『地域力を育む』

～地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・地域を支えるコミュニティ機能の強化～

問 17 横須賀市は、「地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」が進められているまちだと思いますか。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前（４～５年前）と比べて》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問 18 横須賀市は、「地域を支えるコミュニティ※機能の強化」が図られているまちだと思いますか。

※コミュニティ：同じ地域に暮らし、協力して地域の課題に取り組む人々の集まり

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前（４～５年前）と比べて》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

横須賀市の都市力について

- 問 19** 5つの『重点プログラム』に対する実感を踏まえて伺います。
横須賀市は、人口減少や少子高齢化の進展といった状況下においても、着実に成長できるための「都市力（都市の魅力）」を備えているまちだと思いますか。
現在の実感と、以前（4～5年前）と比べた実感を、それぞれの選択肢から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

《現在》

回答欄

理由

選択肢

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

《以前（4～5年前）と比べて》

回答欄

理由

選択肢

- ① 良くなっている ② どちらかというと良くなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというと悪くなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

- 問 20** 人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、横須賀市が着実に成長できるために、今後、市はどのような政策に優先して取り組むべきだと思いますか。
次の選択肢から優先すべきと思う順に3つまで選んでその番号を回答欄に記入してください。
なお、⑪その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

選択肢

- ① 子どもを産み育てやすいまちづくり
② 人間性豊かな子どもの育成
③ 誰もが活躍できるまちづくり
④ 安全で安心なまちづくり
⑤ 人と自然が共生するまちづくり
⑥ 地球環境に貢献するまちづくり
⑦ 地域経済の活性化と雇用の創出
⑧ 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり
⑨ 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり
⑩ 地域を支えるコミュニティー機能の強化
⑪ その他（具体的にお書きください）

回答欄

1 番目	2 番目	3 番目	「⑪その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい

V 個別の取り組みに対するあなたの実感・意識について伺います

◆ 市役所サービスへの満足度について

問 21 日々の暮らしに関わる市役所のサービスに対する、あなたの「満足度」について、選択肢からあてはまるものを 1 つだけ 選んで回答欄に記入してください。

選択肢

- ① 満足している ② ほぼ満足している ③ どちらともいえない
④ やや不満である ⑤ 不満である ⑥ わからない

回答欄

地域活動への参加状況について

問 22 あなたは、地域のまちづくり活動※やボランティア活動、NPO活動に参加、参画していますか。

選択肢からあてはまるものを 1 つだけ 選んで回答欄に記入してください。

※地域のまちづくり活動の例：町内会の役員、地域のクリーン活動や防災・防犯活動など

選択肢

- ① はい ② いいえ

回答欄

地産地消に対する意識について

問 23 あなたは、食材や加工品を購入したり、飲食店で注文したりするときなどに、農水産物（食材）の産地を意識しますか。

選択肢からあてはまるものを 1 つだけ 選んで回答欄に記入してください。

選択肢

- ① 意識する ② ときどき意識する
③ どちらともいえない ④ 意識しない

回答欄

※選択肢①②を選んだ方は、問 24 へ進んでください。

選択肢③④を選んだ方は、14 ページの問 25 へ進んでください。

問 24 【問 23 で①または②を選んだ方に伺います。】

あなたは、食材や加工品を購入したり、飲食店で注文したりするときなどに、横須賀市内産の農水産物（食材）を選びますか。

選択肢からあてはまるものを 1 つだけ 選んで回答欄に記入してください。

選択肢

- ① 必ず選ぶ ② ときどき選ぶ
③ 選ばない ④ 見かけたことがない

回答欄

健康づくりについて

問 25 あなたは、普段、自分は健康だと思いますか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。

選択肢

- ① 健康だと思う ② まあまあ健康だと思う
③ あまり健康ではないと思う ④ 健康ではないと思う

回答欄

問 26 あなたは、ご自身の健康状態をどのような手段で把握していますか。
選択肢から選んで回答欄に記入してください。【複数回答可】
なお、⑥その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

選択肢

- ① 学校・勤務先での健康診断 ② 病院等医療機関での健康診断
③ 保健所健診センターでの健康診断 ④ かかりつけの病院・医院での診療
⑤ 把握していない ⑥ その他（具体的にお書き下さい）

回答欄

	「⑥その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい
--	--------------------------

問 27 市内の公園等で、町内会や有志の人たちが集まり、ラジオ体操をしていることを
知っていますか（学校の夏休み期間中のみ実施されているものを除く）。
選択肢からあてはまるものを 1 つだけ 選んで回答欄に記入してください。

選択肢

- ① 知っている ② 知らない

回答欄

※ 選択肢①を選んだ方は、問 28 へ進んでください。
選択肢②を選んだ方は、問 30 へ進んでください。

問 28 【問 27 で①を選んだ方に伺います。】

あなたは、そのラジオ体操に参加していますか。
選択肢からあてはまるものを 1 つだけ 選んで回答欄に記入してください。

選択肢

- ① 参加している ② ときどき参加している ③ 参加していない

回答欄

※ 選択肢①②を選んだ方は、問 30 へ進んでください。
選択肢③を選んだ方は、問 29 へ進んでください。

問 29 【問 28 で③を選んだ方に伺います。】

それはなぜですか。

選択肢からあなたのお考えに近いものを選んで回答欄に記入してください。

【複数回答可】

なお、⑥その他を選んだ場合は、具体的な理由を記入してください。

選択肢

- ① 実施の時間に行けない ② 近くで実施していない ③ 自宅でラジオ体操をしている
④ 日常的に運動をしている ⑤ 興味がない ⑥ その他（具体的にお書き下さい）

回答欄

「⑥その他」を選んだ方は、具体的な理由をお書き下さい

問 30 あなたは、30 分以上※の運動（ウォーキングや自転車での走行等を含む）をどれくらいしていますか。

選択肢からあてはまるものを 1 つだけ 選んで回答欄に記入してください。

※30 分以上：1 日の合計で 30 分以上（例：10 分を 3 回なども含む）

選択肢

- ① 週3日以上 ② 週2日 ③ 週1日
④ 月2～3日 ⑤ ほとんどしない

回答欄

あなた自身のことについてお伺いします

※記入もれがあると、いただいた回答が無効になってしまうことがあります。

分析に必要なデータですので、全員の方がお答えください。

次の各項目において、あなたにあてはまるものを選んでください。

F 1 <性別>

- ① 男性 ② 女性

回答欄

☐

F 2 <年齢>

- ① 15～19 歳 ② 20～24 歳 ③ 25～29 歳 ④ 30～34 歳
⑤ 35～39 歳 ⑥ 40～44 歳 ⑦ 45～49 歳 ⑧ 50～54 歳
⑨ 55～59 歳 ⑩ 60～64 歳 ⑪ 65～69 歳 ⑫ 70～74 歳
⑬ 75 歳以上

回答欄

☐

F 3 <お住まいの地域> (次ページに地域別一覧表があります。ご参照ください。)

- ① 本庁地域 ② 追浜地域 ③ 田浦地域 ④ 逸見地域
⑤ 衣笠地域 ⑥ 大津地域 ⑦ 浦賀地域 ⑧ 久里浜地域
⑨ 北下浦地域 ⑩ 西地域

回答欄

☐

F 4 <職業>

- ① 農林漁業 ② 自営（商店・工務店・工場等）
③ 自営（サービス業） ④ 会社員・公務員（事務職・専門職・管理職）
⑤ 会社員・公務員（販売／サービス） ⑥ 会社員・公務員（保安・運輸／通信・建設／労務）
⑦ 自由業 ⑧ 家事専業
⑨ アルバイト・パートタイマー・派遣社員 ⑩ 学生
⑪ 無職 ⑫ その他

回答欄

☐

F 5 <世帯の状況（同居）> （複数回答可 ※①を選択した場合は他の選択肢を選択できません）

- ① 単身世帯（一人暮らし） ② 夫婦のみの世帯
③ 世帯に小学生未満の子どもがいる ④ 世帯に小学生～中学生の子どもがいる
⑤ 世帯に 65 歳以上の高齢者がいる（ご自身を除く） ⑥ ①～⑤に該当なし

回答欄

☐

F 6 <横須賀市に住んでいる年数>

- ① 1 年未満 ② 1～3 年 ③ 4～9 年 ④ 10～14 年
⑤ 15～19 年 ⑥ 20～24 年 ⑦ 25 年以上

回答欄

☐

《調査項目は以上です。ご協力ありがとうございました。》

地域別一覧表

(町 名)	(地域別)
稲岡町、不入斗町、上町、小川町、大滝町、楠ヶ浦町、坂本町、佐野町、猿島、汐入町、汐見台、新港町、田戸台、鶴が丘、泊町、日の出町、深田台、富士見町、平成町、平和台、望洋台、本町、緑が丘、三春町、安浦町、米が浜通、若松町	➡ ①本庁地域
浦郷町、追浜町、追浜東町、追浜本町、追浜南町、湘南鷹取、鷹取、夏島町、浜見台	➡ ②追浜地域
田浦町、田浦泉町、田浦大作町、田浦港町、長浦町、箱崎町、船越町、港が丘	➡ ③田浦地域
安針台、西逸見町、東逸見町、逸見が丘、山中町、吉倉町	➡ ④逸見地域
阿部倉、池上、大矢部、金谷、衣笠町、衣笠栄町、公郷町、小矢部、平作、森崎	➡ ⑤衣笠地域
池田町、大津町、桜が丘、根岸町、走水、馬堀町、馬堀海岸	➡ ⑥大津地域
浦賀、浦賀丘、浦上台、小原台、鴨居、光風台、西浦賀、東浦賀、二葉、南浦賀、吉井	➡ ⑦浦賀地域
岩戸、内川、内川新田、久比里、久村、久里浜、久里浜台、佐原、神明町、長瀬、ハイランド、舟倉、若宮台	➡ ⑧久里浜地域
栗田、グリーンハイツ、津久井、長沢、野比、光の丘	➡ ⑨北下浦地域
秋谷、芦名、太田和、荻野、子安、佐島、佐島の丘、湘南国際村、須軽谷、武、長井、長坂、林、御幸浜、山科台	➡ ⑩西地域

横須賀市民アンケート報告書

発行年月：平成 30 年（2018 年） 9 月

編集・発行：横須賀市政策推進部都市政策研究所

〒238-8550 横須賀市小川町 11 番地

電話：046 - 822 - 9784 FAX：046 - 822 - 9285